
真剣に私と貴方で恋をしよう！！ 外伝？ ~毎日が記念日 365日の小噺~

春夏秋冬 回

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

JのPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

真剣に私と貴方で恋をしよう！－外伝？－毎日が記念日 3

65日の小嘶

【Zコード】

N3348W

【作者名】

春夏秋冬廻

【あらすじ】

特に意味のない作者自己満足の作品です。毎日何かを書こうとの思いつきのもと、1年毎日何かしらの記念日がある事に目をつけて適当に作ったものです。見ても面白くなく意味のないものなので自己満足と自己責任でどうぞ。皆さんの雑学の一つの足しにでもなればいいかな？ 毎日のユニークアクセスが100以上……思つた以上に見ていただけて嬉しいです。

7月25日は？

「今日は『かき氷の日』だぞジンー。」

「こきなりどうしたの？ モモちゃん」

「だ～か～ら～！ 今田フ田^フ田^ト田^トは『かき氷の日』なんだぞー！」

「ああ、7月25日の語呂合わせでかき氷の昔の呼び方『夏氷（7^な2^二5^五おり）』だね」

「なんだ、そんな意味だったのか」

「知らなかつたの？ ジヤあなんで僕にそんな事を言つたの？」

「かき氷が食べたいー！」

「結局それなんだね……」

10分後。

「セツレーブモモちゃん。今日は『かき氷の日』だけぞ『知覚過敏の日』でもあるから、歯に染みなによつに氷をつけてね」

「もつと早く言えええええ」

7月26日は？

「モモちゃん。今日が何の日か知っている？」

「知らないぞ、私は知らないぞ、ジン、私は今日が何の日か絶対に知らないぞ」

「なんで怯えているの？ 今日つて確か！」

「私は知らないぞ！ 今日が『幽霊の日』だなんて知らないからな！」

「『幽霊の日』？ ああ、この間鉄心さんが言つてたね。何でも

」

「四谷怪談の初演の日なんて知らないなー。」

「自分で言つてて怯えてどうするんだよモモちゃん。僕が言おうとしたのは『ポツダム宣言記念日』の事だつたんだけど……」

「え？」

7月27日は？

「ジン！　スイカを食つぞ！」

「何モモちゃん。また何かの記念日だつて言つの？」

「そうだ！　今田7月27日は『スイカの日』なんだ！　だからスイカを食つー！」

「食べ物ばつかだねモモちゃんは」

「そもそも何で『スイカの日』なんだ？」

「えつと確か、スイカが夏の果物を代表する『横綱』だから、語呂合わせじゃないかな？」

「7月27日をどう考へればスイカに繋がるつて言つんだ」

「727がそれぞれ『なつな』になるから、『夏』と『綱』の2つを意味して『夏の綱』。それで『夏の横綱』つて意味でスイカなんじゃないかな？」

「考へた奴アホだろ」

「七月二十八日は？」

「なージン、今日が『浪速の日』だつて知つたか？」

「『浪速の日』？ ああ、七月二十八日の語彙をさせで『七月二十八の日』だね」

「やうだ。だから今日一日は関西弁で話さうと頑張るんだからね」

「やうやう？」

「何でいきなり関西弁なのか分かんないけど」

「ええやないか。なんや樂しそうやんか！ ううーー」と、私は今
田一日を関西弁で過ごすからなー！」

「樂しそうに行ひ出やつたけど絶対無理だよな……やうこべば『葉
っぱの田』でもあるんだよね今日せ」

7月29日は？

「なあジン。お前はカレーには福神漬か？ それともラッキョウ漬か？」

「またいきなり唐突だねモモちゃん。何？ また何かの記念日なの？」

「ああ、何でも今日は『福神漬の日』らしい」

「なるほど、だから今日はモモちゃんのリクエストでカレーなんだ」「なあジン、何で今日が『福神漬の日』なんだ？ 語呂合せも合わないだろ」

「福神漬の名前の由来が『七福神』だからじゃないかな？ ほら今田は7月29日、『729』でしょう？」

「ややこしいな。もっと分かりやすく田口じゅりよな」

「用意の段階は？」

「神！ モモを何とかせんか！」

「どうしたんですか鉄心さん。なんか騒がしいですか？」

「どうもこうもないわー！ お主のせいだモモがとにかく構わず門下生
ドロップキックをかましつるんじゃー！」

「何で僕のせいなんですか？」

「モモがお主に今日は『プロレス観念団』だと教えていたと言
つておったぞー！」

「いや確かに教えましたけど、その事とモモちゃんのドロップキッ
クがどう繋がるんですか？ 僕には関係ないじゃないですか！」

「つべつべわんわんとモモを止めてこんかいー。連帯責任じ
やー！」

「理不眞面目ー。」

7月31日は？

「なあジン。私は人は信じれば空を飛べると想つんだ」

「いつも思つけど本当に唐突だねモモちゃん。それで？ 何でそう思つたの？」

「ああ、何でも今日は『パラグライダーの日』らしい」

「だから信じれば空も飛べると思つたの？ モモちゃんのためにはつきり言つけど、人間の身体の構造上、空を飛ぶのは不可能だからね？」

「でもテレビを見ろ！ その人たちは『氣』を身体に纏つて空を飛んでいるんだぞ！？ 同じように『氣』を纏える私たちも…。」

「うふ。それ以上はなんかヤバイそつだから言わないでねモモちゃん」

8月1日は？

「なあジン、『國士無双』って何だ？」

「『國士無双』？ 何でいきなりそんなこと訊くんだ？」

「いいから答える。今の私にはとても重要な事だ」

「別にいいけど……『國士無双』ってのは国中で並ぶ者がないほど優れたた人物のことと言つんだよ」

「ふうん。それ以外に何か意味があるのか？」

「あとは麻雀の役の名前だな。13種すべての？九牌を揃えてそのうちのどれか一つを雀頭（シャントウ）とした役満だ。そういうやあ今日は8月1日『^{ハイ}8-1』の語呂合わせで『麻雀の日』だったな……ってモモ？」

「ジジイー！ 国士無双の意味分かつたゾー！ 私にも麻雀やらせろー！」

「何やつてんですか鉄心さん！？」

「あれ？ 今日俺様の誕生日だけど誰も祝ってくれないの？」

8月2日は?

「モモ。お母パンツは買つたのか?」

「じきなりなんだクソジジイ。よもや孫娘にまで欲情し始めたのか、近付くなこのペドフィリアブルセラジジイ」

「相変わらずいい度胸しどのつ。とこつかどいでそんな言葉を覚えてくるんじゃお母は……まあ今はいい」

「気持ち悪いデジジイ。いつたい何の用だ」

「今日が『パンツの日』だとこいつ事を知つとるか?」

「なんだその変態親父が喜びそつな記念日は?..」

「ちゃんとした下着メーカーが決めた記念日じゃバカたれ」

「それは分かつたけど、何で私に言つんだ?」

「今日は女が惚れた男にこいつそりとパンツをプレゼントする日なんじゃよ」

「だ・か・ら! 何で私にそんな事を言つんだ!-?」

8月3日は？

「私は一度だけでいいから熊になつてみたいぞ。そして思いつきつはちみつを腹いっぱいになるまで食べたい！」

「なんだいきなり？ 生まれ変わつたらつてやつか？」

「こや違ひがい。今日は『まちみつの日』らしい」

「だから熊になつてみたいつて安直だなモモ……」

「知つてたか？ 熊は蜂に刺されて死なないらしいぞ。しかもスズメバチの天敵らしげ」

「刺されても死なないつているよりは、蜂の毒針が届かないだけだろ。熊の体毛はタワシ並みに固いし体毛も結構長いらしくからな」

「ああー やつぱり一度熊になつてみたい！」

「モモの場合スズメバチに刺されても平氣やうだナゾな」

8月4日は?

「『呪り橋効果』と言つものがあるらしいな」

「こつもながら本当に唐突だなモ。それで? 今日遊園地に来た事とその発言には何か意味があるのか?」

「男女が危険を共に体験すると連帯感や恋愛感情が生まれるといつ効果らしいが、お前はどう思ひジン?」

「うん。それはジョットコースターのつべんに座るこの状況で話す事なのか?」

「今だから話すんだ。じつ思ひ」

「一種に恋愛勘違い症候群だろ。そもそも俺たちジョットコースターに乗つているだけで危機感を感じるか?」

「そこには盲点だったな……」

「今日が8月4日の『橋の日』だからだと黙つたび、俺としては『箸の日』の方が妥当だと思つんだけど、お前はどう思ひモモ?」

「凄い速さで落し下しているのに余裕だなお前……」

8月5日は？

「どうしたんだモモ。じつとダンボールを見て」

「なあジン。人間一人を入れようとすると、どれだけの大きさのダンボールが必要だと思う？」

「……鉄心さんをダンボール箱詰めにでもするつもりなのか？」

「誰がそんな」とするか！？　だた今日が『ハ』の日　うじいから
ちょっと疑問に思った事を言つただけだろ！？」

「8月5日だから『ハ』の日』か

「やついつ事だ。それでどれだけの大きさが必要かな？」

「やけにこだわるな？　本当にただ疑問に思つただけか？」

「…………ああ（言えるわけない。箱に入つてジンの誕生日に『私がプレゼント』なんて恥ずかしい事を一瞬でも考へてしまつたなんて言えるわけない！…）」

8月6日は?

「朝から黙祷なんてやつしてメンツベタに事しなきゃならないんだ」

「寺院の娘がなに言つてるんだモモ。それに今日8月6日は瓜島の『平和祈念の日』なんだから」

「分かつてゐるけど、川神院は武術の総本山だぞ。あまつやうこつた事には関係ないとthoughtっていたんだけどな」

「それでも寺院の院号ひとじょを貰つているし、鉄心さんは戦争経験者だろ。だから思い入れも一入なんだろ」

「やつこつものなのかな?..」

「やつこつものなんだろ」

「私としては『ハムの日』の方がありがたいけどな」

「結局は食べ物なんだなモモは」

8月7日は？

「テレビをニュース見てるなんて珍しいな？ 何か興味を引く事でもやつてたか？」

「なあジン。何で仙台の七夕祭りは7月じゃなくて8月にやるんだ？」

「あれ？ モモ知らなかつたのか？」

「知らないから聞いている」

「旧暦だよ。七夕といえば7月7日だけどそれは明治以降の新暦。旧暦の7月7日は新暦では8月6日頃なんだよ。だから今日は『月遅れ七夕』とも呼ばれてる」

「ふうん。だから七夕祭りは8月にやるのか」

「そういう事。それよりもバナナ食べるか？」

「もちろん食べるが」

(8月7日は『バナナの日』でもあるんだけどモモは知つてたかな?)

8月8日は?

「『ひのしたジン』? ほりつと外を見て何か考え」とか?」

「いや、ちょっとな?」

「悩みながら姉さんが聞いてやる。何でも話せ。まあ話せ!」

「もはや齧しだよ!! 大した事じゃないんだけど、ヤマが8月8日は『親孝行の日』だって言つてたからな……」

「何で『親孝行の日』なんだ?」

「88が『^{はは}88』『^{パパ}88』と読める事と、『ハチハチ』を並びかえると『母・父』と読める事かららしい」

「それがどうして ああ……悪い……お前は両親の顔知らないんだつたな」

「別に気にするな。ちょっと考えていただけだよ」

(今日はお前の誕生日なの忘れてるだろ。ジジイ、今日を誕生日にしたの失敗だつたな)

8月9日は?

「メンデベセー。メンデベセー。本当にメンデベセーぞー。ジン
！」

「だから仕方ないって言つてるだり？ 8月9日は長崎原爆犠牲者
慰靈平和祈念式典の日なんだから。広島の平和記念の日と同じだろ」

「だからって何で私たちまで付き合わなきゃなんないんだ！？ 私
たちには本当関係ないだろ！」

「戦争を忘れないためだろ。事実俺たちの年代は戦争知らないんだ
から」

「戦争が起きたら私が戦地にいて全員を殲滅してやるー。」

「出来ついで怖いぞお前のその発言せ……後でファミリー集めて野
球でもするか。ちゅうど今日8月9日は『野球の日』だからな」

「よしー。ヒトヒト全員を集めろジンー。」

8月10日は？

「うへん……これは違う……これもなんか変だな

「あのモモ。買ひ物に付き合ひのは別に構わないけど、何で帽子選びに俺に似合ひ似合わないを試す必要が？」

「お前に誕生日プレゼントを渡してなかつたからな。今日は『帽子の日』でもあるからこでにと想つてな

「8月10日で『810』で帽子か。それよりモモ、誕生日プレゼントはみんなから貰つたぞ」

「私個人のプレゼントだ。いいから動くな」

「はいはー

「うへん……これもなんか違う……これも全然似合ひてない！ ああー、その鬱陶しい長い髪をなんとかしやー。」

「なんだよその理不尽はー？ 髪を伸ばせり言つたのはモモだろ！？」

8月11日は？

「お姉様～！」

「おおワーン子～。」(つちだん)――

「ねえお姉様、用事つて何？」

「聞いて驚けワーン子～。今日は何とワーン子を称える日なのだ～。」

「ええ？ アタシ呪われちゃうの～？」

「いやワーン子、それは『祟る』だ。私が言つたのは『称える』だからお前を褒めているんだ」

「え？ お姉様がアタシを褒めてくれるの？」

「さうだぞ妹よ。今日8月11日はなんと『ガンバレの日』なんだ！ だから頑張っている妹を私は姉として褒め称えてやる～！」

「ありがとーお姉様！ でもアタシは毎日が『ガンバレの日』！ これからもお姉様に近付くために頑張るわよーー！」

「うん、私の妹は本当にかわいいな～」

8月12日は？

「君が代って正式な国歌じゃなかつたって知つてたかジン？」

「ん？ 一時期問題なつたあれか？ 学校の式典で歌うとかどうかと言つてたな」

「そうそれだ」

「それがどうかしたのか、モモ？」

「いや、今それどうなつたのかと思つてな。今でもよく国歌斉唱で歌われてるだろ？」

「ヤマが言つてたけど、1999年に『国旗国歌法』により正式に国歌になつたらしい。しかも8月12日を『君が代記念日』にしたらしいぞ」

「それつて遅すぎじゃないか？」

「遅いだろ。ヤマが言つこには歌詞は10世紀の『古今和歌集』の1編で、曲は1880年の明治13年に作られて国歌として扱われたらしい。そう考へると実に119年だ」

「私はそれを知つてゐる大和がおかしいと思うが……」

「同感だ」

「ねえガクト。今日は何の日か知ってる？」

「なんだモロ？ 別にただの何でもない口だろ？」

「違うよ。今田は『函館夜景の日』だよ。1991年から実施されてるんだって」

「そん豆知識なんの役に立つてんだ」

「知らないよりは知ってる方がいいでしょ」

「そもそも何で今日がその『函館夜景の日』なんだよ？」

「たぶん8月1-3日の諧融合せで『8』を『夜』^や、『1-3』をトランプのスートして『景^{けい}』。それで『8-1-3』にしたんじゃないかな」

「メンデベセに考え方だな」

「やつ言つたら終わりだけね」

「まあ夜景は綺麗だと思つぜ。『夜景がやけいに綺麗だな』って言つしな」

「なんて寒女のオヤジギャグ！？」

8月14日は？

「大和知つてた？ 今日は『グリーンパー』って言つりじよ？」

「なんかの記念日なのか？」

「うん。韓国で記念日なんだけど、8月14日は恋人同士で森林浴をする日なんだって」

「うん。それは分かつたけど何で俺は公園につれてこられて何でお前は服を脱ごうとしているのかな京さん？」

「だつて森林浴って本当は裸でするんでしょう？」

「ど」からの知識だそれは。その俺たちは恋人同士じゃないだろ

「うん。だから今ここで恋人になるつよ大和。好きです付き合つてくれださい」

「お友達として緑色のボトルに入つた安価なジュースを飲んで互いを慰め合おう。本来は焼酎らしいんだけどな」

「知つてたなんてさすが博識な大和。好きです」

「だからお友達で」

8月15日は？

「1945年の今日8月15日に日本は終戦を迎えた。それを忘れないために今日は『終戦記念日』であり、それに伴う使者を追悼するための『戦死者を追悼し平和を祈念する日』もある」

「だから何だつてんだジジイ」

「よつて今日の全国戦没者追悼式に合わせて正午に黙祷をおこなう」「またかよ。いい加減関係ない私たちにそれを強制させるな」

「強制ではない馬鹿孫が。これは義務じや」

「義務でも誰がやるかジジイ。そもそもジジイがその気になれば世界大戦も勝てたんじゃないのか?」

「戦争を個人の思想で決着させていいわけあるか。少しは考えんかこの馬鹿孫が!」

「はつー、どうせ腰が抜け出来なかつたんだりー、私なら一瞬で殲滅させてやるナビナ!」

「相変わらずいい度胸じやなモモー、その性根叩き直してやるー。」

「上等だジジイー!」

「ハイハイ。ワタシたちは準備を進めるヨー後は任せたヨ、ジン」

「結局俺なんですね」

8月16日は？

「なあ知ってるかタカ？」

「なに岳人くん」

「今日はなんと『女子大生の日』らしいんだよ」

「…………」

「何でも日本で初めて女子大生が誕生した日らしいで、それまで女で大学の入試の合格者は1人もいなかつたって言うんだぜ」

「…………」

「女子大生だぜ女子大生！　いい響きだと思わないか？　なあタカ？」

「私の可愛い紺鷺刀に何をいかがわしい事を吹き込んでる？」

「げつー？」

「あ、凛奈さん」

「いい度胸だな島津の坊主。これはアレか？　死ぬ覚悟は出来たと
いう事か？」

「いや、その、『めんなさい…』」

「問答無用だ」

（岳人くん。凛奈さんがその現役女子大生だと知つたらどう思うかな？）

8月17日は？

「お~キヤップ、なんだこの大量のパイナッフルは？」

「いや~親父がなんか沖縄で貰つて来たらしいんだ」

「何でまたこんな大量のパイナッフルを……」

「何でも今日は『パイナッフルの日』らしいぜ。変な日だよな？」

「語呂合わせだろ。8月17日で『^{バイナ}817ツブル』」

「ん？　おお！　言われてみればそうだな！　なんかそう考えると
おもしれーな！　なあ大和！　俺たちもなんかそういうた記念日作
るつぜー！」

「作つてどうすんるんだ」

「その日を毎年俺たち風間ファミリーで祝うんだ

「混沌とした宴にしかならない気がするんだが、俺の気のせいいか？」

8月18日は？

「そりゃあ今年の高校野球はどこが優勝するかな？」

「あんま気にならないからな。どこでもいいだろ。俺様はしらん」

「ガクトには聞いてないよ。それより知ってる？ 今日は『高校野球記念日』なんだよ」

「それってどうして？」

「いい質問だヒロ。実は1915年の今日に一回目の全国高校野球大会が始まったんだ」

「人の言葉取らないでよ大和！ ちなみに会場が甲子園に変わったのは第10回から。名称が全国高校野球選手権大会に変わったのは昭和23年からなんだよ」

「無駄な知識。あんま必要ないと思つよモロ」

「大和くんのも必要な知識とは思えないけど、そん辺はどうなの京ちゃん」

「博識な大和、カッコイイ」

「京は結局そこに行くのかよ。俺様には理解できねーよ」

8月19日は？

「今日は『俳句の日』らしいからみんなで俳句を詠んでみようぜー。」

「キヤップ。子供の俺たちに季語を含めた俳句は難しい。川柳でいくべきだ」

「じゃあそれで！ 10分後順番に発表だ！」

10分後。

夏の日の みんなと一緒に時間 師岡卓也

夏の夜に 暗闇を照らす 火の大花 直江大和

夏空の 夕立の後に 虹かかる 篠緋鷺刀

夕涼み 縁日廻る 仲間たち 晓神

俺様は 最強無敵の 岳人様 島津岳

冒険が いつでも呼んでる この俺を 風間翔一

どんな日も 夢を目指して 頑張るぞ 川神一子

強い奴 早く私の 前に来い 川神百代

将来は 直江京に なっている 椎名京

「なあヒロ。これはまほや川柳ですらないだろ」

「最後なんか願望だよね。ジン兄」

8月20日は？

「知つてた？ 今日は『交通信号設置記念日』なんだよ」

「またモロの無駄な雑学知識が始まつた」

「タクには厳しいなミヤ。ヤマとの反応が全く違う」

「私にとつて大和が正義。大和と仲間以外は『ゴミ』に等しいの。分か
るジン兄？」

「分かりたくないぞミヤ。もつ少し人付き合いをよくしろ。じや
なきやいつかどうしようもなくなるぞ？」

「……ジン兄の言葉も分からぬでもないけど……やつぱり人は怖
い。いつかまたあの時みたいになるか分かんないもん」

「そつか……」

「僕の話、全く聞いてないよね2人とも……」

8月21日は？

「知っていますかユキ？ 今日は『献血の日』なんですよ？」

「『献血の日』？ 献血をしなさいって日なの？」

「違う。今日は献血制度が出来た日なんだよ。血つてのは昔は売血制度があつて自分で血を売つていたが、1964年にその制をが廢止し、輸血を献血で確保する体制を確立するよう決ましたんだ」

「準の言つ通りです。実際は1978年に完全に確立した制度なんですね」

「ふうん……ねえねえトーマ。血つていくらぐらいで売れるの？」

「難しい質問ですね。輸血用のパック400?がだいたい1万8千円前後ですね」

「じゃあ人間の血液つてだいたいどれぐらいあるの？」

「人の血液量はその人の体重の約8%ですよ」

「俺の今の体重が47キロだから約4リットルだな」

「じゃあ準の血を全部売つても18万にしかならないんだ。つまんないな～」

「怖い事言わないでくれー！」

8月22日は？

「8月22日は実は1903年に東京で初めて路面電車が走った日なんだよ」

「おい大和。急にモロが何か語り出したぞ」

「誰だよモロに電車の話を振つたのは？ ガクトか？」

「お、俺様じゃないからな」

「思いいつきつ語るに落ちてるなガク」

「雉も鳴かずんば撃たれないのにね。しょーもない」

「ねえねえ誰かと止めてよあれ」

「無理だよー子ちゃん」

「それでね、それを記念して今日8月22日は『チンチン電車の日』になってるんだ」

「女子の前で隠す事無く卑猥な言葉を吐くとは、成長したなモロ口」

「え？」

「…………」「あ、止まつた」「…………」

「あつちーなー。」んだけ暑いとハワイに行きたいぜー。」

「何で暑い時にさらに暑い所に行きたいんだよキャップは

「なんでつてその方が楽しいだろーー。」

「楽しむ前に暑さでどうにかなりそうだよ

「ヒロの意見に賛成だ。とにかく今は涼みたいぞ」

「よつしー。俺がウクレレを弾いてやるから楽しめー。」

「話聞けよキャップ！ ていうか何でウクレレンなんか持つてんだよ
！？」

「さつきそいで『今日はウクレレの日だから君のもあげる』って言
つてアメリカ人ぽい人が俺にくれたんだよ

「どういう遭遇率なのそれ？ 何をどうすれば『ウクレレの日』に
ウクレレ持つている人に会うの？」

「キャップだからだ」

「否定できないから怖いよね」

8月24日は？

「今日は『愛酒の日』だぞ！」

「力説しているところ悪いがモモ、俺たちはまだ未成年だ。飲酒なんてしたら鉄心さんに何を言われるか分からんぞ」

「それぐらいは理解している。だからこれを持っていた！」

「…………そ、それは『川神水』……」

「ねえジン兄、いやな予感しかしないんだけど

「奇遇だなヒロ。俺も今そう思つていたところだ」

「さあ1人1本しか持つてこれなかつたが飲め！ 飲んで楽しもう

じやないか！」

「既に目的が透けて見えているがモモ」

8月25日は？

「いきなりだがみんなカツプ麺つて言つたら何が好きだ？」

「ホントに急だねキャップ」

「さつきテレビ見てたら今日が『即席ラーメン記念日』らしい。だから気になつて聞いてみた。ちなみに俺はやっぱ王道の『カツプードル』だ！」

「感性にいきてるなう時のキャップは、ちなみに私は『王・じょうゆ味』だ」

「姉さんが言えるのそれ？ 僕は『シーフード一ドル』だな」

「よく突っ込んだね大和。僕は『チキラーメン』かなやっぱり」

「モロ自体がチキンだもんな。俺様は『焼きそば』···。O』だぜ」

「ガクトもチキンでしょ。私は『職人・坦々麺』。やっぱこれ

「京は相変わらず辛党ね。アタシは『の達人』よー」

「僕は『ど 兵衛・きつねうどん』。これだけは絶対譲れないよ

「ヒロのうぶん好きも凄いな。僕は『ス キヤカツプ麺』だ」

「『』『』『』『』『』何それ？」

「え？」

8月26日は？

「1789年のこの日、フランスの憲法制定国民議会が『人間と市民の権利の宣言』、つまり『フランス人権宣言』を採択した！」

「歴史的には凄い日だな」

「そして今日8月26日は『人権宣言記念日』でもある！」

「で？ ヤマは何が言いたいんだ？」

「よく聞いてくれた兄弟！ 僕は今日をもって姉さんの横暴に真正面から戦うことを宣言する！ いい加減舍弟にも人権が必要だ！」

「あのヤマ。盛り上がっているところ非常に申し訳ないんだが……」

「なんだ兄弟？」

「お前の後ろにモモがいるからな」

「…………え？」

8月27日は？

「わいこえばモモ」

「なんだジン？」

「武道四天王つて近くにはいないのか？」

「こらめ。葛飾柴又だ。鉄冢と言えばお前も分かるだろ？」

「ああ、あの護らせたら敵はいないつていう鉄冢のことか。あの一族つて葛飾柴又に住んでいるのか。行かないのか？」

「ジジイに行くなつて言われているんだよ。でなきや速攻で勝負に行つてこい」

「当たり前じゃ。わいつてすかんとすべ」行へかひのむ前せ

「これなつ出へべぬなジジイ。何の用だ」

「なに、葛飾柴田と聞けたの。そつこえば今日が『男はつらう』だと思つて出したか今からDVDデータ・ブレイクを借りに行くんじゃ

「発音はDVDですか？」

「じゅあの」

「あのジジイは何が言つたかっただんだ？」

「アリス？」

8月28日は？

「そつといえば日本民間放送連盟つてところが今日を『テレビCMの日』に制定したみたいだね」

「相変わらず変な情報早いねモロ」

「あれだろ、民放テレビがスタートしたのも今日だろ？だから同じ日で制定したんだろ」

「さすが大和は博識だね」

「なんだろこの差は……」

「落ち込むなモロ。所詮お前はモロなんだ。どれだけ頑張ってもモロなんだよ」

「意味分かんないからねガクト。つていつかその慰め方やめてくれない？なんかそれ僕の名前を貶されてれる感じがするんだけど」

「ワリィワリィ」

「やつぱりあの2人怪しい…… B-L臭がする」

「そう言つてるお前が怪しいからな京」

8月29日は？

「てめえワン子！ それは俺様の肉だ！」

「早い者勝ちよガクトー！」

「ガクトもワン子も肉ばかり食べてないで野菜も食べなよ」

「はい大和。タレ持つて来たよ」

「ありがいたが京、なんだこのヤバイ感じに真っ赤なタレは？」

「モモ先輩ずるいぞ！ 肉食うだけで人を吹っ飛ばすなよ！」

「ハツハツハツハ！ まさに弱肉強食だなキヤップ！」

「なんだろねこれ……地獄絵図？ ただの焼肉パーティーがなんでこんな混沌とした宴になつたんだろうね。せつかくの『焼き肉の日』なのに」

「最初から分かり切つた事だつたけどな。モモ、キヤップ、カズ、ガクがいる時点でもともなパーティーになるわけがない。俺たちは俺たちで勝手に食べておこう。充分な量は確保してある」

「いいのかな？」

「心配ない。カズもモモも言つてているだろ？ 『早い者勝ちで弱肉強食だ』ってな」

「ジン兄も意外とちやつかりしてるとよね」

8月30日は？

「どうしたモモ。じつと携帯を見つめて。迷惑メールでもきたか？」

「メール設定で来ないようにしてある」

「じゃあどうした？」

「これを見てくれ」

「なになに？『ハッピーサンシャイン』？なんだこの明らかに無理矢理作ったような記念日は？」

「830で『ハッピーサンシャイン』だそうだ。どう考へたらこんな語呂合せになるか問い合わせやりたいのは確かだな。太陽のよつた明るい笑顔の人ための日らしい」

「それでお前は何を考えていたんだ？」

「いや、私たちの中では誰になるかなと思つてな」

「普通に考えてキャップかカズだろ」

「京じゃないのは間違いないな」

「モモでもないのも間違いなぞ」

「何か言つたか『彼氏』？」

「モモの笑顔が一番だと言つたんだよ『彼女』」

8月31日は？

「よし、今日は『野菜の日』だな。俺様の博識などいかを見せてやるぜー、おこお前ひー」

「今日はモモ先輩の誕生日だぜー、おめでとうー。」

「誕生日おめでとう姉さん」

「おめでとうお姉様」

「モモ先輩、誕生日おめでとう」

「おめでとうモモ先輩」

「おめでとうモモ先輩」

「おめでとうモモ」

「みんなありがとな。プレゼントも嬉しかったぞ。ドガクト？ お前は私に対するお祝いの言葉はないのか？ つん？ 猶予を10秒やる。それまで言わなければ制裁だ」

「…………あれ？」

「沈んでるー。」

「なんで俺様の時は誰も祝ってくれなかつたのに……なんでだよ……」

…」

「そこがガクトとモモ先輩の違いだよ」

9月1日は？

「今日は『防災の日』ですけど川神院では防災訓練みたいなのはしないんですか？」

「特にはしておらんの。一応建物の耐震補強はしておるが」

「ワタシたちにはあまり地震は意味ないからネ」

「確かに地震が来ても津波が来ても大丈夫そうな人たちばかりですよね。その代表例が鉄心さんとモモですからね」

「ワタシからすれば君も十分に大丈夫に見えるよ」

「ホツホツホツホ。まあそれはそれとして自己で防災対策をするに越した事はない。なんせ今日は9月1日じゃからな。⁹『悔い¹』を残さぬように、なんての」

（寒い、寒すぎます鉄心さん）

（それは明らかにダメなオヤジギャグです。鉄心様）

「ブリザード級のオヤジギャグだなジジイ」

9月2日は?

「なあジン、何で子供は宝くじが買えないんだ?」

「なんだいきなり? 宝くじを買いたいのか? 当たりもしないのに」

「当たるかもしないだろ? いやキヤップに買わせれば一等とは言わなくとも確実に当たりそうだ!...?」

「否定はしないけど無理だろ」

「なんでだ?」

「もし当たったとしても未成年場合、当たりくじの換金は保護者同伴だ。結局は自分ではなく保護者が管理する事になる」

「なんだつまらん」

「それ以前に売り場が『未成年の購入は教育上良くないとして自主規制』してるから、売つてもうつ事すら難しいだろ。ていうかなんでそんな事を考えたんだ?」

「今日が『ぐじの日』だからだ!」

「9月2日だからか……いつも唐突だなホント」

9月3日は？

「うひしゃー、こいキャップ！　俺様が打ちのめしてやるー。」

「へんー、打てるもんなら打つてみるー、くらえー。」

「元氣だねあの二人は」

「モロ親父臭い。若者はもつと元氣にやるべき。とつとあの中に
行けば？」

「（う）と本読んでる京よりはいいと思つんだけど……あ、ガ
クト三振した」

「次はジン兄だね。ガクトがこっちに来る」

「ねえ京知ってる？　今日は『ホームランの日』なんだよ。巨人の
王 治選手がホームランの世界記録を更新したのが今日なんだって」

「相も変わらず雑学多いねモロ。あ」

「ちっくしょーなんで打てねえ　あが！？」

「ジン兄の打ったボールがここまで飛んできてガクトの後頭部に直
撃した」

「誰に説明してんの京！？　ていうかホームからここまで200メ
ートル近くあるんだけど！？　いつたいどんだけ飛んだのさ！？」

「だつて、ジン兄だもん」

「納得するしかないじゃ ないか！！」

9月4日は?

「これはズルイよね、モモ先輩」

「ああ、これはないだろ。」こいつら本当に男か?」

「なあヒロ、なんで俺たちはこんな事をされてさうに男の尊厳を踏み躡られるような言葉を言わねきやいけないんだ?」

「何でだらうね。別に何か特別な事してないのに」

「だからズルイんだって事にジン兄もタカの気付くべき」

「そうだぞ。何でお前ら男なのに女の私たちより髪の質がいいんだ」

「それこそ理不尽だろ? だからって何で髪の毛を弄られなければならぬんだ」

「「今日が『くしの日』だから」」

「物凄く意味不明な理由だよねそれ……」

9月5日は？

「そりいえば今日つて『国民栄誉賞の日』だね」

「いきなりだな大和」

「うん、ふと思いついたんだよ。1977年に通算ホームラン数の世界最高記録を作った王治が、日本初の国民栄誉賞を受賞した日が今日なんだつて」

「あの賞の基準つていつたい何なんだ？」

「前人未到の偉業を成し遂げ、多くの国民から敬愛され、夢と希望を与えた人に贈られるらしいよ姉さん」

「ふうん、じゃああれか？ 紛争地帯に行つて両軍を殲滅すれば国民栄賞を貰えるんだな？ 前人未到の事だぞ？」

「いや姉さん？ 確かに前人未到だけど国民栄誉賞は贈られるものだからね？ 欲しいからといつて貰えるものじゃないから。その辺勘違いしないでね？」

「なんだつまらん」

「それ以前にそんな事しても国民に『やるのは恐怖しかないよ』

9月6日は?

「お兄ちやん!」

「こわなつづいたモモ、何か悪いものでも食べたか?」

「お兄ちやん!」

「//ヤ、悪ふざけはヤマに対しだけやつてくれ」

「お兄ちやん!」

「ん? どうしたカズ?」

「「納得いかない!」」

「なんだ? いつたいづつしたモモ、//ヤ」

「だから言つただる。兄弟から見て妹として接する事が出来るのは
ワン子だけだつて。そもそも姉さんは年上だし京は妹つて柄じやないだろ」

「いつたい何なんだヤマ?」

「悪い兄弟。今日が『妹の日』らしいから姉さんが3人の中で誰が
一番妹らしく振る舞えるかって言い出して……」

「なるほどな。ていうかモモの彼氏である俺にとつてカズは実際妹
みたいなもんだし、いつかは本当にそつなるだらうしな」

「いきなり恥ずかしい事言つなー！」

9月7日は？

「『』の なんのき～きなる ～」

「どうしたワン子？ いきなり歌いだして」

「あ、お姉様！ 知つてた？ 今日つて『CMソングの田』なんで
すつて。大和が言つてた」

「ふうん、だからさつきの歌か」

「うん！ CMソングって言われて真つ先に思いついたのがあの歌
なの！ お姉様は何を思いつく？」

「私か？ 私は『ピクン』だな」

「ピ、ピクン？」

「ああ、ゲームのCMであつただろ？ 『赤ピクンは火に強い』
とか言うのが」

「確かにあつたけどそれがいつたい？」

「いやなに、あのピクンの種類が仲間たちにかぶる事があつてな。
ほらキャップは火に強そうだし、ジンは溺れる事ないだろ。タ力な
んか飛べそうだし、ガクトは力持ちだろ。それに京は間違いなく毒
持つてるし」

（お姉様の感性つて時々分からぬわ……）

9月8日は？

「う～勉強なんて嫌いよお」

「文句言わないワン子。最低限の事はやつておかなきや恥かくのワン子だよ」

「分かつてるわよ京」

「じゃあ一つ問題。1951年の今日、アメリカで何があった？日本にも重要な事だよ」

「ええっと、ええっと」

「……終戦から6年、日本と連合国間の対日講和会議が開かれて時の総理、吉茂が調印した条約だよ」

「分かつたわ！　『バカヤロー解散』！」

「お前がバカヤローだ。『サンフランシスコ平和条約』と『日米安全保障条約』でしょうが。それを記念して今日は『サンフランシスコ平和条約調印記念日』。何で変な事は覚えて必要な事忘れてんの」

「！」怖いよ京

「バカヤローの言葉に傾ける耳は持っていない」

「い、いやああああ！」

9月9日は?

「緋鶯刀、温泉に行くぞ!」

「うん、行ってくれば? まとまつた休みが入ったんだよね」

「何を忘けてこらんだ。お前も行くに決まってるだろ。そいつひと準備しの」

「あの凜奈さん? 僕今日も明日も学校があるんですけど?」

「そんなもの知らん。私はお前も連れて行くと決めてこらんだから学校の事なんかどうでもいい」

「どうでもよくないからー。何で今日になつていきなり温泉に行くとか言に出したの? こつもならもひとつ計画的に準備してるでしょ」

「今日9月9日は『温泉の日』だ。大分県の九重町が町内に『九重九湯』と呼ばれるほど温泉が点在しているから制定したらしく」

「だから?」

「だからだ」

「意味分かんないよー!?」

9月10日は？

「ねえみんな知つてた？ 今日つて『カラーテレビ放送記念日』なんだよ。エテルと民放4社がカラーテレビの本放送を開始した日なんだ」

「またモロの要らない豆知識が始まつたよ」

「京ちゃん、その言い方は酷いよ」

「豆知識、雑学つていうのはひけらかしたくなるのが人間の性だよ」

「つていうか、なんで京とタカと大和しか聞いてないの？」

「こんな時に話してんだから聞くわけないだろ」

「キヤップ！ それアタシが狙つてたのに！」

「風を止める事は誰にも出来ないぜー！」

「モモ先輩！ 可愛い後輩に恵んでやらんガクト」

「お前は可愛くないから恵んでやらんガクト」

「まあ分かつてたけど……ていつか何で『910の日』だからといつて牛タンオンラインの焼肉パーティーなのさ……」

9月11日は？

「そういういえば最近、公衆電話を見なくなつたな」

「ん？ 病院とか携帯の使用を制限されている所とか、駅や空港とかの公共交通機関のステーションにはちゃんと置いてあるわ？」

「そりなんだが、道端ではめつきり見なくなつたなあと」

「で？ こきなりビデオしたモモ」

「いや、大和から今日が『公衆電話の日』と聞いてな、道すがら公衆電話があるか見ていたんだ」

「まあ携帯の普及の影響だろ、確かにコンビニやスーパーの近くにあつたやつは撤去されたしな」

「……おこジン、オチがないぞ」

「……こいつ何を言つてるんだお前は」

9月12日は？

「なあワンドー、今日は『マラソンの日』とされているが、なんでマラソンの距離が42・195キロなのか知っているか？」

「へ？ 限界に挑戦する『死に行く』ってい意味じゃないのか？」

「は？ 死に行く？」

「おお。確かに『死に行く』だ」

「感心するな京、つて誰だそんな語呂合わせの意味を教えたのは？」

「ガクト」

「よし後で殴つておいつ。本当の由来は紀元前の『マントラの戦い』で勝利したアテネの兵士が勝利の報告のために走つた距離36・750キロだったんだが、1908年のロンドンオリンピックの時にアレキサンドラ女王が『子供たちにスタートを見せてやりたい』と言つ我が今まで今の距離になつたんだ」

「ふうん、で？ それを知つて何かいい事あるの？」

「さあ？」

「だつたら変な事に時間取らせないでよー！」

「私の大和の言つた事を変な事だと？」この犬！」

「いのんたー!？」

「お前のじやないからな、京」

9月13日は？

「なあクリス、今日が『乃木大將の日』なのは知つてたか？」

「ノギタイショウノヒ？ 大和、何だそれは？」

「お前の性格からして知らないのは意外だつたな…… 1912年の
今日、乃木希典のぎ まれすけつて軍人とその夫人が明治天皇たいそうの大喪たいそうの礼つて言う
国葬の日に自刃して殉職した日なんだ」

「おお！ 主君の葬儀の日に哀悼の意を示し思ひ偲び、自ら果てる
とはまさに武人の鑑！ さすが武士道精神の国だ！」

「大和、私も大和が死んだらすぐに後を追うからね？」

「おお！ この国は大和撫子にも武士道精神が通ずるのか！ 夫の
死に付き従う妻！ なんて素晴らしい！」

「いや、京は俺の妻じゃないし恋人でもないからな？ そもそも今
その考えはナンセンス…… つて聞いてないね」

9月14日は？

「ねえ大和、これなんかどう？」

「なあ京、お前はいつたい何がしたいんだ？　いきなり呼び出した
と思ったら女性下着売り場に問答無用で連れてきて衆人觀衆のもと
お前の下着を選ぶ。これは何かの罰か？　それとも俺に死ねど？」

「大和は知つてた？　今日は『メンズバレンタインデー』って言つ
て、男性が女性に下着を送つて愛を告白する日なんだよ」

「お友達でお願いします！－！」

「大声で頭まで下げて速攻でお友達宣言！？　いくらなんでもそれ
はないよ大和……」

9月15日は？

「なあまゆっち、今日が『老人の日』なの知つてたか？」

「もちろんです。2003年から祝日法の改正によつて、それまで9月15にだつた敬老の日が9月第3月曜日となるのに伴い、従前の敬老の日を記念日として残す為に制定されたからです」

「おお～！ まゆっちすっげー！ なんて博識なんだ！」

「ありがとうござります松風。今日ははじ老人を見かけたら優しくしましようね」

「それはいいけどまゆっち、同級生にすら声かけられないのにお年寄りに優しく声を掛けられるのか？」

「ほうあー？」

「しまつたー？ オイラがまゆっちの心をえぐつちまつたぜー！ こ
うザクリと遠慮なくえぐつちまつたぜーーー！」

「何やつてんだらうね、まゆと松風は……」

9月16日は？

「よつしやー、また当たったぜー！」

「何で最後で逆転されんだよー？」

「7・3か……2番人気と3番人気だな」

「おータク、ラジオと新聞を片手に何をやっているんだあいつらは？」

「あ、ジン兄。いや今日が『競馬の日・日本中央競馬会発足記念日』だつてキャップに教えたら……」

「ああ、競馬の予想をやろうとも言つて出したのか。それで結果は？」

「今8レース終わつてガクトは負けが込んで、大和は五分五分。キャップはまさかの8連勝」

「性格が見て取れるな。しかもキャップは相変わらずの天運」

「そうだね。ジン兄もやってみる？ 意外と面白いよ」

「俺はラジオや新聞を見てやらない。やるなら現場に行つてやる」

「馬の調子を直接見るの？」

「いや、勝たせたい馬の野生の本能を刺激して逃げ脚を速くさせて、

それ以外の馬に殺氣をぶつけて居竦ませて勝たせなよつこする

「なにその超人めいたイカサマー…？」

9月17日は？

「そういうやあ一コースで今日は『モノレール開業記念日』だって
言つてたんだけどよ」

「なにガクト？ 詳しく知りたいの？ いいよ教えてあげる。あの
ね、なんで今日が『モノレール開業記念日』になつたかつて言つと
ね、1964年、昭和39年の今日が、浜松町～羽田空港、今はの
羽田空港駅とは別なんだけど、その間で東京モノレールが開業した
んだ。あ、ちなみにこの沿線は日本初の旅客用モノレールで、遊覧
用のものはそれより7年前の1957年、昭和32年に上野動物園
に作られたものが最初だつたんだつて」

「あ～あ、始まつちやつたわね、モノの機械語り」

「しかも記念日雑学も入つて止まりそつにないね」

「おいでひすりやあいいんだよ？ 教えてくれワニ子、タカ」

「「責任とつて最後まで聞けば？」」

「血も涙もねえ幼馴染みたちだなオイ！」

9月18日は？

「知つてたがガクト、モロ。今日は『かいわれ大根の日』なんだぜ」「いきなりなんだよキャップ。ていうかなんでそんなん知つてんだよ」

「いやーバイト先のおばちゃんがさ、かいわれ大根を大量に買つていたから『どうしたんですか』って聞いたら、『今日はかいわれ大根の日なのよ』って教えてくれたんだ」

「それは分かるけどなんでかいわれ大根を大量に買つてんのさその人？」

「さあ？ 知らん。料理にでも使うんじゃねーか？」

「大量のかいわれ大根を使つた料理……いつたいどんな料理か想像つかねーよ」

「ガクトのかーちゃんも大量に買つていたぞ」

「嘘だろ！？」

「ガクトの家にその正体不明のかいわれ大根料理が出てきそうだね」

9月19日は？（前書き）

注・独自見解設定あり

9月19日は？

「そういえば今日つて『苗字の戸』なんだって」

「ああ、確か1870年・明治3年の今戸、戸籍整理のため太政官布告により平民も苗字を名乗ることが許されたらしいな」

「へへ俺たちの苗字つてその頃付けられたのかな？ みんなに聞いてみようぜー！」

「川神は古いぞ。土地の名前になるほどだからな」

「椎名も古じよ。遅くとも江戸後期にはあったし」

「島津はどうだらうな……か一ちゃんが言つには江戸末期には名乗つてたらしいぞ」

「黛も歴史があります。江戸初期頃にはありました」

「フリードリヒもドイツの古くからの軍人家系だ。200年以上の歴史がある」

「簾は江戸以前からの家だよ。発祥は室町時代つて聞いてる」

「暁は紀元前かららしいな。ざつと2000年以上だ」

「結局僕たち3人だけだね……」

「面白くないぞ大和！ 直江なのになんで古くないんだ！」

「人の苗字にケチつけるなよキャップ！」

9月20日は？

「よつ、はつ、ほつ」

「犬は何をやつているんだ？」

「あれはお手玉ですね。幼い頃に母上と一緒に遊んだ記憶があります」

「おお！ あれがOTEDAMAか！ KIを纏つて投げると全てを破壊するといわれる大和撫子の護身武器！」

「オイ」「ラクリ吉！ 一体全体どこからの知識だよそれってばYOH!?」

「うん？ 大和から聞いたんだが、何でも今日は戦国の頃、城内に侵入した忍をその城の奥方が手に持っていたOTEDAMAで撃退した伝説の日らしいではないか」

「クリスさん、お手玉とは布で作られた球状のものがあやつて落とす事なく、多くの数をジャグリングする昔からの日本の遊戯ですよ

よ

「確かに今日は『お手玉の日』だけど、そんな伝説なんてあるわけねーってばよYOH！」

「なんだとー？ オのれ直江大和！ またしても騙してくれたな！」

「それを信じるクリ吉がどうかとオイラは思つてばYOH！」

「 」 ひの松風、クリスちゃんは純真な方といつ事ですか？」

「 純真にも限度があると感づつゝ 」 ばく〇

9月21日は？

「見よ！　俺様の姿を…」

「[氣色]悪こマイナス100点」「腹焼だマイナス100点」

「なんどこんな動きにぐる格好しなきゃなんねーんだ」

「なかなか、でも無理がある20点」「やつぱり変だな10点」

「姉さんの命令とは言え、男が着るものじゃないだろ」

「さすが大和つて言いたけど今回40点」「結構いけるな40点」

「恥ずかしいよね」「れ……最悪でもカツラは被りたいよ」

「やつぱりモロは似まつ。60点」「いいぞモロロ。65点」

「背が高いこと似合わないわ」「れ……」

「凄いねジン兄。70点」「後姿がヤバいぞジン。80点」

「これは何？　僕に対する挑戦状？」

「さすがタ力！　100点満点！」「文句なしだ。お前は性別を間違えた100点！」

「なあ犬、まゆつけ、何をやつてこるんだみんなは？」

「今日が『ファッショントリオ』らしいので、モモ先輩考案の『男子限定女性着物ファッショントリオ』だそうです」

「面白いでしょークリ」

「意味が分からん」

9月22日は？

「ねえねえ今日って実は『One Web Day』で『オンライン生活を祝う世界的な記念日を作り、維持し、進展させ、普及させる』つていう世界的なイベントがある日なんだよ」

「なんだそりや？ ネット廃人たちのイベントか？」

「違うよガクト！ ネットが出来てよかつたねっていう日だよ」

「なにが違うんだよ」

「直接会わなくとも人と繋がりを作る事の出来るネット環境をもつとよくしていこう、それをもつとみんなに知つてもらおうってイベントなんだよね？」

「その通りだよ、さすがタカ！ やつぱガクトとは頭の作りが違う」

「ケンカ売つてのかモロー？」

「でも卓也君、22日の記念日語りは意味ないよ。あれ見てよ」

「ジン～。今日は夫婦の日だぞ～」

「そうだな」

「大和、今日は夫婦の日だね」

「俺たち友達だろ？」

「なるほど……毎月22日は『夫婦の日』だったね……」

9月23日は？

「なあ兄弟、ヒロ、万年筆の名前の由来って知ってるか？」

「いきなりどうしたの大和君」

「今日が『万年筆の日』だからだろ。1809年の今日、イギリスのフレデリック・バーソロミュー・フォルシュが金属製の軸内にインクを貯蔵できる筆記具を考案し、特許を取った日らしいからな」

「よく知ってるねジン兄」

「なら話は早い。万年筆の名前の由来は2つの通説がある。1つは『fountain pen（泉のペン）』と海外で言われていた事と、半永久的に溢れ出るものを『泉のように湧く』と言つ事から少し捻つての『万年筆』と呼ばれるようになったたらしき」

「ふうん、それでもう一つは？」

「当時、万年筆の輸入を開始した丸善の店員、金沢万吉さんが一生懸命に販売していた事から『万さんの筆』と呼ばれるようになり、いつしか『万年筆』になったという説だな」

「よくそんなこと知つてたなヤマ」

「2つともなんて言つが……無理矢理感があるよね」

「どうか、今日は普通に秋分の日でいいだろ……」

9月24日は？

「凛奈ちゃん。休みだからっていつまでも寝てないでそろそろ起き
てよ」

「うーん……」

「書斎の本棚の一番上の右端の段にあるアルバム全部破棄するよ」

「私の紺鷲刀成長記録^{ベストマイコレクション}[写真集を捨てるのは言語道断だ！」

「起きたね。それじゃあパジャマも洗濯するから着替えてね」

「面倒くさ……今日せびにこも行かないからそのままの恰好でい
いだろ」

「書斎のビニアオラックにあるテープ全部廃棄するよ」

「私の紺鷲刀成長記録映像集を捨てるとは悪逆非道だぞ！」

「じゃあ着替えてね」

「とかか紺鷲刀、いつたいお前は何をやっているんだ？ 使い古
しのHプロンなんか着けて」

「今日が『清掃の日』らしいから自分の家を掃除しきつてキヤッピ
の命令。ちゃんと証拠写真まで撮つて来いつて徹底ぶり……なんで
一眼レフを構えているんですか凛奈さん？」

「ん？ なんでって、お前が証拠写真いるつて言つただろ。任せろ
100枚あるうと撮つてやる」

「一枚で十分だよ……」

9月25日は？

「なあ、知つてたか『女王蜂』。今日つて『主婦休みの日』なんだつてさ」

「それがどうした」

「生活情報紙『リビング新聞』が日頃家事を主に担当している主婦を対象に読者アンケートを取り、その結果1月と5月と9月の25日を主婦がリフレッシュをする日、『主婦休みの日』と制定したらいいぜ」

「だから何であたいにそんな無駄なうんちく蓄を聞かせるんだ」

「え？ だつてだからあんた今日休みなんだろ？」

「あたいは主婦じゃねえ！ メイドだ！ それに今日は定休だ！」

「ふつー」

「……何がおかしい？」

「あんたの主婦姿を想像したら爆笑しかない。またしても俺を笑い殺す気か？」

「……テメヒ……ブチ殺す！」

9月26日は？

「モロはパソコンが得意なんだろ？」

「得意つてほどじやないけど、うん、みんなよりは詳しいね。けどどうしたのクリス？」

「いや、大和が『パソコンや機械関係の事はモロに聞け』 というものがだから……」

「何か知りたい事でもあるの？」

「別にないが気になつて聞いてみただけだ」

「ふうん……あ、そうだ、ねえクリス、今日が『ワープロの日』 だつて知つてた？」

「いや知らなかつたな。そんな日があつたのか？」

「うん、1978年・昭和53年の今日、東芝が世界初の日本語ワープロ『JW-10』を発表したんだ。発売は翌年の2月だつたんだけど、当初の値段、いくらだと思つ？」

「20万ぐらいか？」

「630万円」

「な？ なんだその値段は！？」

「そもそもワープロっていうのは『ワードプロセッサ』の略称で、コンピュータで文章を入力、編集、印刷できるシステムのことなんだ。ワープロ機能をROM化して組み込んであるワープロ専用機と、汎用的なパーソナルコンピュータで動作するワープロソフトがあるんだけど、基本ワープロと言えば前者の事を指すんだ」

「え、ええっと……」

「さつき日本で初めてって言つたけど世界初のワープロは1964年に作られた」

「いつたいこの話はいつまで続くんだ？」

9月27日は?

「何を見ているんですかタカさん?」

「うん、ちょっとこれを見

「自動車教習所のパンフレット?」

「おひタカつた。なんだお前、バイクの免許でも取るのかい?」

「うん、岳人君が持ってきたからちょっと見てただけ」

「あ、見て下さい、今日は日本の女性が初めて自動車の運転免許を取得した『女性ドライバーの日』らしいですよ」

「そういえばタカつちの叔母さん、凛奈さんは免許持ってるのか?」

「うー?」

「タカさん?」

「…………お願いです…………お願いですから速度を抑えて下さい…………これは公道です100キロはやめて下さい…………スポーツカーだからつて無理にドリフトしないで下さい…………カーブに向かつてアクセル踏み込まないで下さい…………高速道路は高速で走る道路じやありません…………お願いですかから200キロで走らないで下さい…………」

「あのタカつちが震えてるぜ…………」

「こうしたこんな運転をする方なんでしょうか……」

9月28日は？

「個人情報の保護に関する法律……いわゆる個人情報保護法が2005年4月1日に全面施行になったのは知ってると思つたが」

「こきなつどうしたヤマ？」

「プライバシー云々言われ出したのつていつからか知つてるか？」

「その頃じゃないのか？」

「それが違うんだよ。実は1964年・昭和35年の今日、三島由紀夫の小説『宴のあと』でプライバシーを侵害されたとして有田八郎元外務大臣が作者と発行元の新潮社を訴えていた裁判で、東京地裁がプライバシー侵害を認め、三島由紀夫に損害賠償を命じる判決を出したんだ。これが日本でプライバシーが争点となつた初めての裁判だつたため、今日が『プライバシーデー』と制定されたんだ」

「ふうん、で？ それで何が言いたいんだ？」

「……兄弟、俺にはプライバシーがあるんだろうか？」

「ねえモモ先輩、大和つたら夜中1時に起きたかと思うと、おもむろに自己燃焼促進の本を取り出してじっくり見入った後、枕元にテッシュ箱をおいて30分にもわたる」

「京おおおお！ 俺のプライバシーを返せえええ！」

「強く生きるヤマ……」

9月29日は？

「」「あ～ん？」

「…………」

「」「やん？」「やん？」

「こつたこぢりしたモモ。ネコ!!!シッポまで付けて……ハロウインには一ヶ用意ど早こわ~？」

「彼女が可愛い格好をしてこるのに最初に突っ込むといのがそこか？普通なり『可愛い』とか言つだら、彼氏な？」

「こや、可愛いことは思つてゐるけど、どうしてネコ!!!なんだ？」

「何でも今日は『招き猫の日』」

「だから猫の格好なのか。安直なのはこの際、置ことくとして、なんで今田が『招き猫の日』になるんだ？」

「9月29日で『929』ってこいつ語呂合せわせらしくて、

「強引な語呂合せな気がするがまあ理解は出来た」

「やうか。なうかわせらしくて、もっこりじゃないのか？ なあ彼氏？」

(可愛あざて直視なんか出来るかー やマカミヤだな 入れ知恵し

たのは！　後で絶対にお仕置をきしてやるから待つてやー。）

9月30日は？

「ガクト……つこひやつちやつたね」

「やうだな、ようこよつて今日やるとはな」

「こつかやるとは思つていたけど……僕が注意していれば」

「モロは悪くない。悪いのは馬鹿なガクト」

「京の言ひ通りだモロ、悪いのは無知なガクトなんだ」

「ありがとう大和、京」

「おいいつたい何なんだこの雰囲気俺様がいつたい何をした！？」

「くるみ、握り潰したでしょ？」

「何だよ京、そんなのいつもの事だろ？」

「今日は『くるみの日』でくるみ愛好家の人たちが制定した日なんだよ。知つてた、ガクト？」

「それがどうしたってんだモロ。別に知らなくても関係ないだろ！」

「お前は何の意味もなくくるみを握りつぶした事で、くるみ愛好家さんのくるみ大好きな心を踏み躡つたんだ！ これは冒瀆だぞ！ 謝れ！」

「え？ 僕様が悪のか？ つてかなんで大和はそんなに興奮してんだ？」

「「「いいから謝れ！」」」

「ぐるみ愛好家にか？」

「「「違う！ ぐるみの木に、あなたの子供を握り潰してすみませんって言え！」」」

「一気に重くなつたな……つーか何？ これってイジメだよな……？」

10月1日は？

「どうよモロ？ 僕様似合つだろ？」

「ガラの悪いヤクザだよね。僕はどうキャップ？」

「まんまオタクじゃねーか！ 僕はどうよジン兄！」

「キャップはサングラスの方が似合つそうだな。僕は似合つか？ モモ？」

「ああ、お前はどんな格好でも似合つぞ。私はどうだクリ？」

「意外と似合いますねモモ先輩。自分は似合つだろつか？ どうだ犬？」

「教育ママね。『やります』とか言つてほしいわ。アタシはどうまゆつち？」

「えつと」「少しばかして見せるぜワンドちゃん！ まゆつちはどうだタカつち？」

「僕はない方がいいと思つけど悪くないよ。僕はどうかな大和君？」

「あー……悪い、女にしか見えん。聞きたくないが僕はどうだ京？」

「カツコイイ……操を捧げたいよ大和……期待してないけどじつへガクト」

「ひっさしり割増しだな京」

「だけど買つわけでもないのこメガネ屋で何やつてんだうつね僕たち」

「今日が『メガネの日』だからだろ? キャップと姉さんの決定には逆らえないよ」

10月2日は？

「2007年の6月、国際総会で今日が『国際非暴力デー』と制定された！」

「なんでだ？」

「それは今日10月2日があの有名なインド独立運動の指導者で、非暴力を説いたマハトマ・ガンジーの誕生日だからだ！」

「へえ、そういうやあの人、ノーベル平和賞の授与を5回も辞退してるらしいな」

「ああ、素晴らしい人だ！」

「で？ ヤマは何が言いたいんだ？」

「よく聞いてくれた兄弟！ 僕は今日！ 姉さんに暴力の空しさを説いてやりたいと思つて！ いい加減理不尽な暴力には耐えられん！」

「以前にもこんなやり取りがあったような気がするが……盛り上がつてているところ非常に申し訳ないヤマ」

「なんだ兄弟？」

「今回もお前の後ろにモモがいるからな」

「…………え？」

10月3日は？

「今日は『登山の日・山の日』らしいけど、みんな一度は登つてみたい山つてある?」

「また唐突だなモロ。10月3日で『^と10^{あん}3』の語呂合せか」

「私は大和の股間の山に」

「下ネタ禁止だミヤ」

「俺様もちりんチョモランマだぜ」

「おお！ 俺も登つてみてー！」

「自分は富士の山だな。日本の象徴だ」

「いいですね、私も富士山には一度登つてみたいと思います」

「富士山なんて登り飽きてるわ」

「何で、一子ちゃん？ ああ川神院の修行の一環？」

「その通りだタカ。だけどあんなもん3時間もあれば往復できる。なあジン？」

「最高6往復したか？」

「姉さん、兄弟……頼むから人間の規格で喋つてくれ

10月4日は？

「知つていろか緋鶯刀、今日は『天使の日』らしいぞ」

「『天使の日』？ ああ、語呂合わせで『104^{へんし}』だね」

「ところで緋鶯刀。お前は天使と聞くと何を思い浮かべる」

「何つて、普通に背中に翼の生えた人でしょ？ よく神の使いとか言われて神話とか伝承とかに登場する」

「ふむ、貧困な想像力だな」

「作家の凛奈さんと一緒にしないでよ。急に言われて思いつくのはありきたりな想像ばかりだよ」

「唐突に聞くが、今お前が『執心のあの子の事』だが」

「『執心つて……そんなんじゃないからね。でも、まゆがどうしたの？』」

「胸のサイズ、およびブラのカップは幾つだ？」

「なつ！？ 急に何を言い出すの凛奈さん！？」

「知つていたが緋鶯刀、今日は婦人下着メーカーのトリンプインターナシヨナルジャパンが2000年に、同社の製品『天使のブラ』の1000万枚販売達成を記念して制定されたんだぞ。だから『天使の日』だ」

「そんな知識、知りたくなかったよ！」

10月5日は？

「ワン子」

「やつぱ体育かな？ 大和」

「政治経済だな。タク」

「情報処理とかかな。ジン兄」

「何でも出来そうだが、数学とか似合いそうだな。タカ」

「国語だな。なんかそれっぽい。クリ」

「歴史ですね。詳しそうです。モモ先輩」

「思い浮かばねーよ。保健体育？ まゆつち」

「家庭科とかじゅね？ キャップ」

「想像できない。あえて言ひなう考古学？ ガクト」

「体育以外出来ないでしょ。京」

「なんでだろう。養護教諭しか思い浮かばない。っていうか、そもそも全員が教師やってるイメージが全くない気がするのは俺の気のせい？ 兄弟？」

「まあそつ言ひなヤマ、ただの遊びだろ」

「今日が『世界教師デー』だからって、なんで教師として似合いで
うな科目を言い合わなきゃならないんだ……」

「10月5日は？」

「『『すぐやる課』って知ってる?』」

「すぐやるかつて……早めに取り掛かる事だろ? それぐらい俺様も知ってるよモロ」

「違うよ。今日10月5日は1969年・昭和44年に千葉県松戸市の市役所に『すぐやる課』っていう課が出来たんだよ」

「日本の役所にはそんな課があるのか」

「うん、何でも当時の市長の発案で『すぐやらなければならぬので、すぐやり得るものば、すぐにやります』をモットーに、役所の縦割り行政では対応できない仕事に、すぐ出動してすぐに処理をする事を目的に設置されたんだ」

「住民のための課か。素晴らしいな」

「それとなクリス、その市長は松本清さんで「ラシクストアの『スマートヨシ』の創業者なんだぞ」

「引っかかるないぞ大和。為政者が商業者なわけないだろ」

「いや、それ本当なんだけどね……」

10月7日は？

「やうそつ聞いてくれよ。今日も、車上狙いしきりとしてた奴らが出てくわしたから一網打尽にしてやつたんだ」

「犯罪を未然に防ぐとは、さすがキャップだ」

「でも危ないです、余り無理しないで下さー」

「それがさあ、立て続けに5回も遭遇しちまつたんだよなこれが」「むつ。日本はそんなに車上狙いが多いのか？　1日で5件とは……」

「『』こつの遭遇率の方がおかしいだけだからな！　そつ簡単に車上狙いやつてる奴と遭遇するなんてありえねーんだよー。あれか？　今日が10月7日で『107』つて語呂合せから『盜難防止の日』に制定されているからか？　お前どんな守護霊が付いているんだってばよー！」

「落ち着いて下さー松風」

「その後も原付のひつたくりも田撃してな。ちょうど俺も原付に乗つてたから、その犯人を追いかけたんだぜ。いやー、カーチェイスみたいで面白かったぜー！」

「何といつか……実にキャップらしいが……」

「本当にキャップさんらしいんですけど……」

「ここへ……良い悪い関係なく事件に遭遇する星の元に生まれてん
だな……」

10月8日は?

「今日10月8日は『足袋の日』なんですよ」

「ふーん。なんでだ? 語呉合せとか関係ねえよな?」

「それはですね。日本足袋工業懇談会が1988年・昭和63年に制定しまして、10月以降は七五三・正月・成人式と、着物を着る機会が多くなるという事で、漢数字にすると末広がりで縁起のいい8日を『足袋の日』としたそうです」

「なるほどねえ。やけに詳しいじゃねえかまゆつち」

「まゆつちは小さい頃から着物をたくさん着てんだぜ。それぐらいの知識持つていて当然じゃねえか」

「で?」

「え?」

「それいがいつたいぢつしたつてんだ? 倭様にはあまり関係ないんだけどな」

「(レ) 11月1つ小糸なダジャレを!」

「ああああまゆつち。今度足袋を219足買こに旅に出よつせ!」

「それはまだじつしてですか?」

「足袋を219足買いに『足袋219』ってな！」

「何故だろう……その寒いダジャレを聞くと、俺様の胸に今、猛烈に懐かしい何かが込み上げてきやがるぜ」

10月8日は？（後書き）

ちょっとした中の人ネタ。歳がばれそうですね。

10月9日は？

「『トラックの日』『塾の日』『道具の日』『東急の日』ね……」

「タカラさん？ 携帯電話を眺めてなにをしているんですか？」

「ああ、まゆ。今日がなんの日なのか気になつてね。ちょっと調べていたんだ」

「もうなんですか」

「知つてた？ 今日は他にも『世界郵便デー・万国郵便連合記念日』でもあつて、全世界を一つの郵便地域にする事を目的とした万国郵便連合が発足した日もあるんだって」

「最近は携帯電話やパソコンの普及で手紙のやり取りは少なくなつたつて聞きますけどね」

「まゆは結構手紙書いてたよね？ 癖なの？」

「私はただ友達がいませんでしたので携帯電話を持っていなかつただけなんです……」

「えっと……ごめんね」

10月10日は？

「10月10日はいろんな記念日があるみたいなんだけど、その1つに『田の愛護デー』があるんだって」

「記念日語り好きだなモロ。で？ どんな記念日なんだ？」

「うん、1931年・昭和6年に中央盲人福祉協会が『視力保存デー』として制定して戦後に厚生省、現在の厚生労働省だね、そこが『田の愛護デー』って改称したんだ」

「でもなんで今日なの？」

「10月10日の『10』を横に倒すと眉と田の形になるでしょ？ そこからみたいなんだ。あ、ちなみに角膜移植のためのアイバンクも1963年・昭和38年の今日に開設されたんだよ」

「ふうん、そうなんだ……ねえ大和。もし私が失明したら手とり足とりぴったりと密着して先導してね？」

「『』は眼が命なんだろ？ その誇りを忘れる事ないと俺はお前を信じていろるや」

「『』をやつてる自分が恨めしい……

「結局そっち方面に行くんだね京は……」

10月11日は？

「わあ～京さん凄いです」

「ま、こんなもんだよ」

「京にまゆづち、何をやつてこらんだ？」

「おうクリ吉。京ねHさんスゲーんだぜ。メツチャワインクが上手いんだよ」

「やうなのか。自分はどうにもやうこったものは苦手だ」

「まあクリス不器用そつだからね。そつそつ知つてた？ 今日、10月11日は『10』と『11』を横に倒すとワインクをしているように見えるから『ワインクの日』なんだつて」

「言われてみればそつですね」

「よくそんな雑学を知つていたな」

「まあね。ちょっと前に女子中学生の間でこの日、朝起きた時に相手の名前の文字数だけワインクすると、片思いの人気に気持ちが伝わる、つていうおまじないがはやつたからその時しい物狂いで練習したの」

「し、死に物狂いでか……」

「そ。恋する乙女の嗜みだよ」

「京ネヒさんの場合、なんか執念つちゅうか怨念が込められてそう
だぜ……」

10月12日は？

「しかし、犬は牛乳をよく飲んでいるが、そんなに好きなのか？」

「当たり前でしょ！ 牛乳は栄養価も高い体にいい飲み物なのよ！ ちなみに今日は豆乳だけね」

「ワン子にはそれ以外の目的もあるけどね。クリスも飲む事をお勧めするよ」

「それ以外の目的？ 牛乳を飲むことで何があるというんだ？」

「豊胸」

「なにつー？」

「牛乳を飲むと胸が大きくなると言われているんだよ。だからワン子はいつも飲んでる。だから私はクリスのにもお勧めする。胸大きくしたいんでしょう？」

「お、大きなお世話だ！」

「飲み続ければいつかモモ先輩やまゆつちみみたいな巨乳になれる日が来るかもね」

「ぬ……ぬぬぬぬ……」

「ククク、迷ってる迷ってる。あ、ちなみに今日10月12日は『豆乳の日』って言われている。『12』を『10』と『2』に分け

て、それぞれの『10』『2』の語呂合わせで制定されたんだって。
しょーもないよね

「犬！ 自分にもそれを分けてくれ！」

「いやよー。自分で買つてきなさいよー。」

「クツクツクツク……」

10月13日は？

「あ～疲れたぜ」

「どひしたキャップ。珍しく弱音はいているな

「いやな～、こことこ引越しのバイトが多くてさ。ちょっと疲れ気味なんだよ」

「やうか

「なあジン兄。何か面白い話ねーか？」

「面白い話じゃないが日本の歴史に残る引っ越しで知ってるか

「なになに？ どんなんだ？」

「実は今日10月13日は1868年・明治元年に明治天皇が京都御所から江戸城、現在の皇居に入城したんだ。それを記念して1989年に引越専門協同組合連合会関東ブロック会が『引越しの日』と制定したんだよ」

「へ～そうだつたんだ。つと、これからまた引越しの手伝いだつた。
じゃあまた明日な、ジン兄！」

「おひ。氣を付けて行けよ…………夜の引っ越しはヤバいかりそろ
そろ足を洗わせるべきだな…………何か起きてからじゅ拙い」

10月14日は？

「外よし、中よし、気配なし。ククク、クリスはいい子だからもう寝ているし、まゆつちは『友達』って言葉を使えば簡単に操れる。キヤツプと源君はバイトで明日の朝までいないし、クッキーは秘密基地で警備。これで今夜、私を邪魔するものは存在しない。今日は『ワインナー』。恋人とワインを飲みながらロマンチックな時間を過ごす日。まだ恋人じゃないけどお酒の力を借りれば既成事実なん^{エターナルハッピーティ}てすぐに出来るさ、ククク。さあ大和！ めくるめく幸せの結婚生活^{イズ}のための第1歩を一緒に あれ？ 大和？ どこにいるの？ あ、書置き。えっと『今日は川神院の兄弟の部屋で寝泊まりするからな。夜這いかけてもいらないからな』……ちえつ、大和今日が何の日か知つてたみたい。ああ！ でもこの放置プレイもなかなかに快感がああ」

10月15日は？

「そういえば今日のニュースで人形供養の事を言っていたが、日本ではそういうのは多いのか？」

「意外と多いな。特に今日は『人形の日』になつてゐるからそれに因んで全国各地で人形供養や人形感謝祭といった催しが開かれているしな」

「しかし何故人形供養なるものが出来たんだ？」

「なんて説明すればいいか……昔から日本は長く使つていて飾つた物には魂が宿ると言っているんだ。特に人形は人と同じ形をしているから宿り易いらしい。さらに厄や災いを代わりに受けてくれるとも言われている」

「なるほど……つまり感謝の意を込めて供養するという事だな」

「簡単に言えばその通りだ。ところでクリス。島津寮の女子トイレの扉の隣にガラスケースに入った日本人形が置いてあるだろ？」

「ああ、年季の入った見事な人形だ。でもそれがどうかしたのか、ジン兄殿？」

「実はあの入形には魂が宿つていてな。夜な夜なガラスケースから出て寮内を徘徊しているんだ。しかもそれを目撃した寮生は死ぬまで悪夢に苛まれるらしい」

「う、嘘だよな……？」

「どうかな。そりいえば10年ぐらい前の寮生がそのせいで発狂したって聞くな」

「…………た、助けてマルさあああん！」

10月16日は？

「いや、キャップはないだろ？」

「そだね。キャップはまんまリーダーって感じだよね」

「さうかって言つてたジン兄の方じゃなくて？」

「あー俺様もそう思つ

「モモ先輩もさうじやないだろ？」「

「お姉様はひつと違つた気が……」

「確かに圧倒的ですけど、私もちょっと違つと思つます」

「まあ、別の意味では間違つてなこと思つた……それを言つたら怖いしね」

「さうから俺たちの名前が出てこるけど……こつたい句なんだ、ヤマヘ」

「ヤマヘ」

「兄弟か。いやな今日が『ボスの日』らしいから俺たちの中で一番『ボス』って言葉が似合つのは誰かな、って話になつたんだ。で、俺たちの中では兄弟が一番似合つてるんじゃないかなって

「なるほどね。確かにキャップは『ボス』つているよりは『リーダー』つて言葉の方が似合つてるな。でも『ボス』だったらモモも似合つだろ？」

「似合つひが姉さんの場合は味方の『ボス』っていうよりは、敵の『ラスボス』つてのが似合つてるだろ」

「……だそりだぞモモ」

「「「「「「「「へ?」」「」「」「」「」「」」」」

「言ひ度胸だな前ら。覚悟は出来ていいか?」

10月17日は?

「わいこえはキャップで今ビのへりこ貯金してゐるの?」

「なんだよモロ、いきなつ」

「いやあ実は今田が『貯蓄の田』だからさ。ちよつと気になつたんだ」

「教えるほど貯まつてねーよ。けビ面白れーな。他にも聞いてみよ
う」

「いや、誰もキヤツプみたいに貯金したこと無いつね

「えー。ジン兄ならやつてんじやん」

「もつとあり得ないからー。あの人日本に帰つてきしそんなに時間
たつてないでしょー?」

「貯金ならあるだ

「うわあー? ビックリしたー。背後から急に声かけないでよー。」

「んな事はどーでもいいんだよモロー。で、いへいへいこ貯金ある
んだよ、ジン兄?」

「えーっとアメリカドルで50万だつたか? で、帰国した日付で
大使館が日本円に変えて振り込んでくれてるはずだから……」

「ちょっと待つてよ！ 4月24日の為替相場つて確か1ドル98円ぐらいだったよね？ つて事は4900万！？」

「おお！ スッゲー！」

「凄いどこのじやないから！ なんでそんなにあるのさ！？」

「たしかお世話になつていた軍での仕事の報酬だつたか？ 詳しくは知らないけど」

「ホントに規格外だよねジン兄つて……」

10月18日は？

「今日は『ミニスカートの日』だな」

「えつと。どう返したらいいでしょうか、凛奈さん？」

「1867年・昭和42年の今日は、イギリスからの当時『ミニの女王』と呼ばれていたモデルのツイッギーが来日した日なんだ。それから日本ではミニスカブームが巻き起しつてな」

「うん、それは分かつたけどそれを僕に言つていったいどうしたいの？」

「つまりこういった事だ」

「その手に持つているものは聞きたくないけど『ミニスカートだよね？』

「そうだ」

「もしかしてそれを僕に履けと？」

「変態になりたいのか？ これは由紀ちゃんへのプレゼントだ。あの娘、あんまりスカート持つてなさそうだしな。素材がいいのに勿体ない」

「そうだね。喜ぶと思つよ」

「ああ、だから緋鶯刀、これを由紀ちゃんに渡して履いた姿を写真

に取つて来い

「僕に何をさせたいんですか貴女は！？」「

10月19日は？

「Hi brother. How do you know what day today is?（なあ兄弟。今日が何の日か知ってるか？）」

「I know. I speak English in What? No, what makes sense from speaking in English.（知ってるけど。何で英語で話すんだ？ いや、英語で話すから意味があるのか）」

「Truly brothers. I know that we'll.（さすが兄弟。よく分かってるな）」

「頭混乱するからやめろ！ ここは日本だ！ 日本語で喋れよ！ つーかなんで英語で喋ってんだよ！？」

「英語なのは分かるんだねガクト」

「ケンカ売つてんのかモロ！ 今日は安値で買うぜ！」

「暴力反対。ちなみになんで2人が英語で話してるのがかつてのはね。今日が世界共通の英語コミュニケーション能力検定『TOEIC』を実施する国際ビジネスコミュニケーション協会が制定した『TOEICの日』だからだよ。理由は10月19日で『1019^{イック}』の語呂合わせだね」

「Did you know that well. More. Day truly love words.（よく知つてた

な。さすが記念日語りが好きなモロだ」

「No, but I think I know who all
so maniac……（いや、知ってる俺たちもマニアックだと
思つんだが……）」

「Well, this anniversary is an
ordinary person I'll know.（まあ、
普通の人はこんな記念日は知らないよね）」

「だから日本語で喋れ！ 僕様がおかしいみたいじゃねえかよ！」

10月20日は？

「う～ん」

「なんだユキ、俺をじっと見て」

「う～ん」

「だから何なんだ！ スッゲー気になるじゃねーか！ しかもなんか視線が俺の田より上を見ているような気がするんですけどそれって氣のせいですかね！？」

「ねえトーマ。 やっぱり今日は準には関係ない田だよね～」

「その言葉は準に対して失礼ですよ、ユキ」

「え～！ でもせっぱりあれじやあ～」

「それでもです。そもそもあれはユキのせいではないですか」

「ああ！ なんかオチ読めてきたぞオイ！」

「今日は10月20日で『頭髪の田』～。『1020』の語田合
わせからなんだった～！」

「ええ、同時に『ヘアブラシの田』でもあるよつどすね」

「うん！ でもハゲの準には全く関係ないもんね～？」

「やばそれか！？ ってか俺はハゲじゃなくてスキンヘッドだって何度も言つてるでしょ！？ わ・さ・と・一 髪の毛を剃つてるの！」

「髪の毛ないなりひしきも同じじやん 」

「わうりやうだだけビー つてこつかー 若も言つてたけどスキンヘッドにしなきゃこない理由の原因はコキだろ！？ 俺はいつまでこのネタでイジられるんだ！？」

「死ぬまでじゃない？」

「それって、死ぬまでスキンヘッド確定なのか？ 俺？」

10月21日は？

「ぬおあ～。身体が固まつちまつたぜ」

「ふふ、徹夜でテレビゲームをするのもたまにはいいものですね」「だろ？ でも桃 やいた トはダメだな。若が一人勝ちしちまう「準が弱いだけだよ～だ」

「3人しかいないんだから、集中砲火で俺狙えば最下位に決まるだろ！ ユキもたまには若を狙え！ つて、うん？」

「電球が切れかかっていますね。そりそり、今日が『あかりの日』なのは知っていましたか？」

「『あかりの日』？ 何それ何それ？」

「1879年の今日。かの天才発明家、トーマス・エジソンが日本・京都産の竹を使って白熱電球を完成させた日なんです」

「ふうん。そうなのか。お、丁度日が昇ってきたな」

「ね～準。窓際に座つてタオルで頭磨いてよ～」

「俺の頭は明りじゃねえ！ つていうかなんでハゲネタばつかで俺をイジルんですかね貴女は！？」

10月22日は？

「そういえば、今京都で三大祭りの一つ、『時代祭』がやっているんだけど知つてた？」

「京都三大祭り！ 葬祭や祇園祭と並ぶ日本伝統のお祭りか！」

「クリスは詳しそうだね……」

「当然だ！ 何でも桓武天皇が長岡京から平安京へ移った日付が今日で、1895年に平安京遷都1100年を記念して創建された平安神宮の例祭になつたのが『時代祭』だ！」

「本当に詳しいね。ちなみにその理由から今日は『平安遷都の日』とも言われるらしいよ」

「セント？ あつ！ もしかしてあの氣味が悪い鹿坊主がマスクットのあれ？」

「それは違うぞ！ 犬！ せんくんは平安京ではなく平城京遷都1300年を記念して設けられたマスコットだ！ それに鹿坊主ではない！ 鹿の角を持つ仏様をモチーフにしたんだ！ そこを間違えるな！」

「あわわわ、クリ怖いわよ～」

「お前はそれでも日本人かー！」

「それ知ってるクリスの方が外国人としてマニアなんだけどね……」

10月23日は？

「小梅さん、小梅さん」

「篁。だから小梅さんはやめると言つているだの」

「いいじゃないか。私たち以外誰もいないんだから。なんだつたら小梅さんも私の事を『凜』と呼べばいい。昔みたいに」

「はあ……それで？　いつたい何の用だ？」

「そうだった。今日が『電信電話記念日』だという事を知っていたか？　1869年の今日、東京～横浜で公衆電信線の建設工事が始まつたんだ。それを記念して当時の電気通信省、後の電電公社、今のNTTが1950年に制定したんだ。ああ、ちなみに当時は旧暦だから9月19日だつたんだがな」

「職業病なのか、そういうた知識が多いな相変わらず……それを私に聞かせてどうしたい？」

「いや？　特には。ただ仕事以外に男と電話する事のない小梅さんにせめてもの豆知識をだな……」

「いい度胸だ貴様。そこになおれ、指導してやる」

「今の時代、アラサー・アラフォーで独身は珍しくないぞ」

「貴様にだけは言われたくないわ！　待たんか！　凜！」

10月24日は?

「今日は松風ピンチの日かもな」

「どういふ事だい、ジン兄よー」

「知つてたがまゆつち、松風。今日10月24日は『文鳥の日』らしいだ」

「わうなんですか……でもビーフしてそれが松風のピンチの日??」

「ま、オイラよりスゲー奴なんて、ま、いるわけないってばよ」

「はは。10月が手乗り文鳥の日なが巡回の時期らしいんだ。だから『1024あわせ』って意味の語呂合わせから付けられたらしんだ」

「手に幸せ……つまり手乗り文鳥を飼えば幸せが手に入つてることですかー?」

「その意味で間違つていなこと思つナビ。」

「し、幸せが……」

「ひへ、ちよ、まゆつかー? ビーフとジン兄オイラマジヤベーよー。まゆつかせのためにオイラ手放すかもしれねーよー。」

「本物の娘は面白いな……」

10月25日は？

「Hi-Everbody. 元気にしてたか？」ラジオ番組「O V E 川神番外編が始まるよ」。パーソナリティーは俺、自家白熱電球こと井上準と

「人生、順風満帆将来安定。川神百代だ」

「さて、何で今回ラジオかというと、なんと今日10月25日は『リクエストの日』なんですよね～」

「ふうん、それで？」

「リクエストの始まりは1936年。ベルリンのドイツ放送でラジオのリクエスト番組が放映。生演奏番組の放送中にリスナーから希望する曲目を演奏してほしいと電話があったのがきっかけで始まつたんだよね。それが今日10月25日だつたため、記念日と制定されたんですよ」

「ふうん、だから？」

「いや、嬉しい日じゃないですか」

「ああ、凄いな。それでオチは？」

「いやオチって貴女……え？ これってそういうメーカーなの？」

「ないのなら私が落としてやる」

「なんか言葉の意味が違うような気がするんですけど
ぱこのオチなのね！ やめてモモ先輩！ ウ、ウギヤアアア！」

10月26日は？

「ふう……」

「ヌ？　どうした姉上。溜息など珍しい」

「おお、英雄か。なに、軍需統括として避け得ぬ問題に直面してな。少し気が滅入つていただけだ。おおそつだ英雄。今日が『原子力の日』だという事を知つておつたか？」

「無論。1963年・昭和38年に茨城県東海村に日本はうの原子力発電が行われ、1956年・昭和31年、日本が国際原子力機関に加盟したのが今日だから1964年・昭和39年に政府が制定したのだろう？」

「フツ、さすがだな。ついでに言つなら『反原子力デー』もあるがな」

「なるほど、姉上の悩みの種は核兵器か。確かに軍需統括としては避け得ぬ問題だな」

「人が原子力に頼り続ける限り、決して無くならん問題だ」

「フハハハハ！　なにを弱気になる事がある姉上！　ならば九鬼が原子力に変わる新時代のエネルギーを創ればいよいだけではないか！」

「それもそうだ。いずれ紋が政界対策部門のトップに立てば、やれぬ事ではない」

「何より！ 我は英雄ヒーローなのだ！ 英雄ヒーローに出来ぬ事などありはしない！ フハハハハツ！」

「時折お前のその根拠のない自信が羨ましいな」

10月27日は？

「お？」

「ん？」

「おう、マルギットじゃないか。こんな所でどうした」

「暁神ですか。お嬢様に頼まれたいた物を島津寮に届ける任務の途中です」

「任務つて……いつもの『とく熊のぬいぐるみだろ』

「肯定です。知っていますか、暁神。今日は『テディベアズ・ティー』と呼ばれています。何故かというと今日はテディベアの名前の由来となつたアメリカ第26代大統領セオドア・ルーズベルトの誕生日なのです」

「へえ、そう

「イギリスのテディベアコレクターの間で始められ、世界中で『心の支えを必要とする人たちにテディベアを送る』運動が行われており、この日本でも日本テディベア協会が1997年から実施いしています」

「…………」

「ちなみに何故、名前の由来がセオドア・ルーズベルト大統領かといふと、1902年の秋、ルーズベルト大統領は趣味であるクマ狩

りに出かけたのですが得物を仕留める事が出来なかつたのです。そこで同行していたハンターが小熊を追い詰めてい最後の1発を大統領に頼みましたが、『瀕死の小熊を撃つのはスポーツマン精神にもどる』として撃たなかつたのです。この事が同行していた記者により新聞に掲載され、このエピソードにちなんで翌年、ニューヨークのおもちゃメーカーがクマのぬいぐるみにルーズベルト大統領の愛称でもあつた『テディ』を名づけて販売したのです。しかもちょうどその頃、ドイツのシュタイフ社のクマのぬいぐるみが大量にアメリカに輸入されたため、『teddy bear』の名前が爆発的に広がったのです。

「…………すいぶん詳しいな」

「…………クリスお嬢様の受け売りです」

「だよな…………あんたがぬいぐるみ好きって事実だったとしても、それはそれで可愛らしいけどな」

「か、可愛らしい…………ゴホン、軍人にそのような形容詞は不要です。では私は急ぎますので」

「気のせいじゃなければ『可愛い』の言葉にえらく反応したような……言われ慣れてないのか。今度からかつてやるうかな」

10月28日は？

「なあなあ大和！ 知つてたか？ 今日は何と『日本のABCの日』なんだとよ！ なんか俺様興奮してきたぜ！」

「アホかお前は。いいか、そのABCつての“Audit Bureau of Circulations”的頭文字で日本語で言えば新聞雑誌部数監査機構の事だ。1952年・昭和27年の今日、日本に広告料の基準となる新聞や雑誌の発行部数を調査する団体、新聞雑誌部数監査機構A B Cが誕生して、それを記念して1988年・昭和63年に制定されたんだ」

「なんだよそれ。つまんねーじゃねかよ

「本当にお前は馬鹿だなガクト」

「んだと『ハア！？』

「なあ京、何故ガクトは『ABCの日』で興奮するんだ？」

「知らないの？ 日本では“ABC”と言えば恋人との触れ合いを意味するんだよ」

「触れ合い？」

「そそ。ちなみに A・B・C の事だからね」

「なつ！？ なんとハレンチな！？」

キス ポティタゼザクス

「いやこの程度でハレンチって……ホント、ガクトとクリスって真逆だよね」

「お前もちょっとはクリスを見習つて恥じらえ、京」

10月29日は？

「あれ、凛奈さん？」

「おお、師岡の坊主か。どうしたこんな所で？」

「うん。ちょっとパソコンのパースを見にね。といひ句を見たんですか？」

「ああ、何やう今日は『ホームビデオの日』じゃくな」

「『ホームビデオの日』？」

「何でも1969年・昭和44年の今日、ソニー・松電器・日本クターが世界初の家庭用VTRの規格『U企画』を発表した日らしい」

「へえ～、そうなんだ」

「それで今日はビデオカメラがお買い得にな。ちゅうどいから新調しようと考えていたんだ」

「でもこの前夕力の入学の時に新しく買つたばかりですね？」

「半期に1回は新しい機種が出るんだ。チェックは怠らないぞ」

「その心は？」

「常に最新の綺麗な映像で紺鷦刀の姿を残しておきたい」という思い

からだ。さらに今は由紀ちゃんもいるしな。2人の姿を永久に残しておくにはやはり1番いいものでないといかん。よし、ついでに一眼レフも新調しよう」

「二十数万もあるカメラを思いつきで新調するなんて……この人の金銭感覚ってタカが絡むと途端におかしくなるよね……」

10月30日は？

「みんな自分の初恋って覚えてる？」

「また急だね、いったいどうしたの？　ちなみに私は大和だよ」

「京は聞かなくても分かるよ。あのね、実は今日は『初恋の日』なんだって。何でも島崎藤村が『こひぐさ』の一編として初恋の詩を発表したのが今日で、それを記念して長野県小諸市にある藤村ゆかりの宿、中棚荘が制定したんだって」

「それで『初恋の日』か……恥ずかしいが自分は父様だな」

「やつぱり？　ちなみに僕は幼稚園の時の友達だった女の子かな」

「マセでんなモロ。俺様は小1の時の担任の先生だ。胸大きかったからな」

「筋金入りのスケベだなお前。私はもちろんジンだぞ。ジンももちろん私だよな？」

「当たり前だ。キャップとカズはなきやうだな」

「あはは。よく分かんないわ」

「俺も分かんねー。友達として好きと何がどう違うんだよ？」

「キャップはいつになつたら異性に目覚めるのや。俺は母さんの後輩のお姉さんだったな。よく家に遊びに来てたから」

「そいつを殺す」

「物騒だからやめてよね京ちゃん。僕はたぶんみんなの想像通りだと思つたけど凜奈か。まゆは？」

「私は初恋以前に異性どうりか同性の友達すらいませんでしたので……」

「…………」「…………」「…………」「…………」「…………」

「わよ、マジヤベーとまゆっちー まゆっちの発言でみんな引いちまつたぜー。」

「ああー も、申し訳ありません！ そうですよねそういうのみなさん幼き頃の大切ない感じに切なく淡いセピア色になつた心の思い出を語つてこなうのに私だけが海の底に沈むが如く暗い幼少時代の黒歴史を語るなんてお前何やってんだ馬鹿じやねーって感じですよねただみんなの話を聞いて何となく私の初恋はタカさんかななんて思わなくもないわけでしてつてこれつて私もみなさんと同じ淡いセピア色の思い出を持つてるって事ですかやつたやりましたよ松風ー！」

「おめでとー！ めでとーまゆっちー！」

（（（（（（（なんか途中で爆弾発言があつた気が）））））））

10月31日は？

「「「「「Trick or Treat!」」」」

「ああそつか、今日はハロウインだつたな」

「そりだぞジン。だからお菓子くれそしてイタズラせらる」

「どつちかにしる。モモは黒猫か、なんか1ヶ月ほど前も同じ格好してたな」

「大和、お菓子いらなかからイタズラして？」

「主面が真逆だろ。京はミニスカ魔女つ娘スタイルか」

「早くお菓子を寄越しないさいよキャップ！ モロー！」

「はは、ワン子まんま犬じやねーか！」

「いや狼でしょ普通に考えれば！」

「このような格好をするのは初めてだな」

「ほへ、クリスはミイラ男　いやこの場合はミイラ女か。俺様としては露出が少なくて残念だぜ。それにしてもまゆつちはスゲーな

「…………／＼／＼」

「えつと……凄い格好だね？」

「憐れむんだつたら盛大に憐れんでもいいぜタカッち！ それよりもうちよつと氣の利いたコメントはねーのかよ！？ まゆつち一世一代の大決心でこんな格好してんだぜー！？ 悪魔つ娘の格好なんてバーニガールの服着て作りモンの角と羽と尻尾つけただけでほほ露出狂じやねーかよ！？ ちなみにオイラはジャック・オー・ランタン仕様だぜ！」

「落ち着いて松風。そもそも誰の提案なのその仮装はー？」

「はつはつはー！ どうだ緋鶩刀、役得だらうへー！」

「やつぱり凛奈さんだつたか……」

10月31日は？（後書き）

ちなみに男どもが

ジン 悪魔 大和 ドラキュラ キャップ 狼男
ガクト フランケンシュタイン モロ 魔法使い
ヒロ ジャック・オー・ランタン

の考えもありました。

1月1日は？

「いいクリス、今日はワン子を褒める日なんだよ」

「なんだ急に。犬が何したのか？」

「違うよ。今田はワン子の日なの」

「なんだ、あいつの誕生日なのか？　だつたら早くプレゼントを買ってこなれば」

「騙されるなクリス。別に今日はワン子の誕生日でもなんでもない」

「大和か。では何なんだ？」

「今日は『犬の日』なんだよ。今日1月1日の『111』を犬の鳴き声『^{ワンワンワン}111』の語呂合わせにして、制定されたんだよ」

「なるほど、だから『犬の日』か……おい京、何が犬を褒める日だ。あいつは全然関係ないだろ」

「ちつ……」

「舌打ち？　お前今、舌打ちしただろ？　待て京！　逃げるな！」

「そもそもお前がワン子を『犬』って呼んでるから京にイジられるんだろ」

11月2日は？

「シンクの水垢つてなかなか落ちませんよね」

「あれはね、お酢を使つといいらしいよ。何でも水垢はアルカリ性だからお酢の酸性が中和するんだって」

「タカラづらなかの物知りだぜ」

「なあジン。あの2人は顔を突き合わせて何の話をしているんだ？」

「何でも水回りの汚れの落とし方について語つてるようだ」

「色氣ないな。そもそもなんでそんな話し�になつたんだ？」

「せつとき今日が『キッチン・バスの日』って事をお教えたんだよ。ほら、明日が文化の日だから前日である今日に『家庭文化の在り方を考える日』にしようつてキッチン・バス工業会が制定したんだ」

「そつからどうすればあんな話しに行きつくんだ……」

「お互ひ、家事が特技だからだろ」

「へえ、そうなんだ。今度まゆの言つ通りにしてみるよ」

「はい！　お役に立てて何よつですかー！」

「……本人たちが楽しそうにしているからいいか。何とも色氣ないけどな」

「やけに拘るなモモ

11月3日は？

「ねえ大和。今日が何の日か知ってる?」

「何の日って『文化の日』だろ?」

「そうだけど、それ以外にもあるんだよ」

「ああ、戦前は明治天皇の誕生日だったから『明治節』っていう祝日だったんだよな。あとは『文化の日』にちなんで『文具の日』や『まんがの日』もあるな」

「うんそうだね。でも今日は『いにお産の日』でもあるんだよ?」

「『飯尾さんの日』？ 全国の飯尾さんを称える日なのか？」

「わざと言つているでしょそれ。あのね、出産の現状をもつと多くの人たちに知つてもらい、今のお産の状況をよりよいものにしていく日で、『1103^{いじさん}』の語呂合わせから制定されたんだよ」

「……それを俺に言つてどうしたいんだ京?」

「大和も将来、私のためにお産についての知識をちゃんと持つておいてね。ああ！ 大和の赤ちゃんを考えるだけで想像妊娠しそうー！」

「怖い事を本人の目の前で言わないでくれ！」

ユニーク1万突破 外伝の外伝？（前書き）

ぶっちゃけ中の人ネタ。

S登場新キャラとの絡みが基本。

ゴードン突破 外伝の外伝？

君と響きあつRPG?

「よし！ 翔が燕ちゃんが言つてた風間ファミリーのリーダーの翔
一君か！」

「あ？ 誰だあんた？」

「だはは、俺は燕ちゃんの父親で松永久信ってんだ。よししくなー。
「おひ、よひしくー。でも俺、なんかあんたのこと知つてるような
気がすんだよな」

「実は俺もなんだよね。もしかして違う世界では一緒に世界を救
つてたりして」

「なんかあんたには裏切られそうな気がするんだけどな」

「もう！ 冗談キツイな翔一君は！」

§ § §

絆が伝説を紡ぎだすRPG？

「なんで此方がここにおゐるんじや？」

「それは僕が知りたいよ。つてつかなんで僕、二組の子と一緒にいるんだる」

「でも何故じや、そなたの声を聞くと無性にお金が欲しくてたまらない、がめつい性格になりそななのじやー！」

「言ひがかりでしょそれー？ 僕だつてなんか知らないけど無性にものを投げ飛ばしたくなつてるんだからー！」

「…………」

「なに？ 急に黙らうないでよ」

「モロモロ～、つて此方は何を口走つておるのじやーー？」

「なんでだらう。その呼ばれ方に既視感^{アジャガ}が……」

君と殴り……もとい、君が生まれ変わるRPG?

「なんだお前はー？」

「そりゃJUJITSUのセリフだぜー！ お前にそ何なんだー？」

§ § §

「俺は九鬼従者隊序列999位！ そして揚羽様の執事！ 武田小十郎だ！ わあ俺は名乗つたぞ！ お前も名乗れ！」

「やけに暑苦しい野郎だな。俺は福本育郎だ」

「福本！ なんでそんなにやる気がないんだ！ お前はもつと周りを楽しませる存在だつたはずだ！」

「お前じゃ真逆な気がするのは俺の勘違いかー！？」

「殴り合ひー！ そしてお互いの気持ちをぶつけあひやー！」

「なんであつなるんだあああー！？」

§ § §

「俺が ンダムだ！」

「おい貴様。もつとやる気を出せんか」

「うむせえな。下手に田立つたら組織に狙われるだろひが

「何の組織だ。まつたくこれが那須」「一か。せつかくのその力を無駄にするとは……武士道プランと言つても結果がこれじやあ九鬼も大した事ないな」

「うぜえなテメエ。確かに石田三郎だつたか？　まさか組織の手の者か？」

「だから何の組織だ。いつものよつこ『狙い撃つー』とでも言つてろ」

「いつ俺がそんな事言つた！？」

「フハハハ！　あえて言わせてもらうつー　九鬼英雄であるとー。」

「「どつから湧いて出たー？」」

§ § §

俺たちも　ンダムだ！

「大串スグルだ」

「長宗我部宗男！」

「京極彦一だ」

「島右近」

「えつと歸岡卓也です。つて何この組み合わせはー？」

§ § §

とある魔術の？

「何故だろう。仲がいいのに義経は時々クリスが凄く疎ましく思えてしまつ」

「ああ、急にどうしたんだ？」

「こいつ見てると、クリスの向こいつに長い刀を持つた胸の大きな女の人の姿が見えてくるんだ」

「そう言われても……でも確かに自分も時折、義経の向こいつに髪の短い電気を纏つた中学生ぐらいの女の子が見えるんだ」

「何故だろうか……」

「なんでだろうか……」

§ § §

とある町のパン屋の出来事？

「おこ桐山」

「なんだい」やいましょうか、英雄様？」

「お前に聞きたい事がある」

「私で答えられる事でしたら何でもお答えいたしましょう」

「つむ。では行くぞ。お前に」

「レインボウ」

「…………」

「さすが桐山だ！」

「お詫め頂きありがとうございます」

誰かのために生きてその？

「お前が源忠勝か！」

§ § §

「なんだオマーは？」

「私は九鬼紋白なり！　おい源！　我のものになれ！」

「お断りだボケ。そもそも俺とお前のどこに関わり合ひがあるんだ」

「言われてみればそうなのだが、我の心の中の何かがお前をものに
しうと呴つて仕方がないのだ」

「そいつは俺じゃなくて、かつての俺だつたやつなんじゃねえのか
？」

「おお言われてみればそうだ！　だがかつてのお前にはどうやって
会えばいいんだ？」

「んなもん知るか。自分で考えろ」

§ § §

敵物語？

「この組み合わせはいったい何でしょうね？　クリス様？」

「自分に聞かれても分からん。ていうか何故自分一人が女なんだ、
京極殿？」

「さあな、確かに興味深くはあるがたいした意味はないだろつ。そう思つだろ鉢屋壱助？」

「とりあえず、倒された者たちのは間違いないな。という事だ桐山鯉」

「誰にでしょつか？」

「ツンデレの奇策師と一緒に行動する無刀の七代目剣術家だ」

「そう言えばそれがしは殺されていないな」

「何故だらう、無性に将棋が打ちたい」

§ § §

だてにあの世は見てないよ?

「綺麗な薔薇には棘があるのさ。いいねいいね！ ボクカツコイイよね！ そう思わない小十郎」

「ああ！ 決めゼリフっぽくていいなクッキー！ 僕もやるぜ！ 眼の力をなめるなよ！」

「なにやつてるんだいあんたたちは。アホな事やってないで仕事しない仕事」

「これはマーブル様！　申し訳ありませんでした！」

「今度アホな事してたら本当にあの世を見せてあげるからね」

§ § §

青龍偃月刀の遣い手？

「ねえ弁慶？　三国志で一番好きな武将は誰？」

「やっぱり関羽雲長かしらね。あの強さは生前の私に通ずる強さがあるわ。それになんとか他人つて気がしないわね。そういうスタイルーは？」

「私も関羽だな。だつて畠布と並んで最強つて言われてるんだろ？　それに何だが私も他人つて気がしないんだよ」

「そう。ねえ、これからそれを肴に飲み明かさない？」

「いいねえ。ひとつまで付き合つてやるよ」

「さうね、そしてどうちが本物の関羽雲長のかはつきりせましよ」

§ § §

犬の夜叉と殺生？

「お前は『氣に』くわねー」

「同感だね。君は美しくない以前に心の底から嫌悪感が湧きあがつてくるよ」

「ナツリに透かしたところが氣に入らねえんだよー。」

「中途半端な君と完全な私とでは元からが違つんだよ」

「なんだとー。」

「本当に野蛮だね」

§ § §

誰が主で誰がメイドで？

「執事服を着る女の従者。悪くないけどやつぱり可愛いくはないし

たいな」

「世界的な指揮者か。そういう生活も憧れるな」

「クリスのメイド……すげ大変そうだな」

「どういつ意味だ京!」

「まゆまゆは貧乳の半ズボン好きショタか。まるで真逆だな」

「な、何の事ですかあああ!?」

「僕はお姉ちゃん! ははは~なんか面白やつ!」

§ § §

最後はやつぱり強氣つ娘?

「あ~あ、アタシは別の世界だつたら四天王の1人なのにな~」

「私も通ずるものがあるね。母親と仲いいのは理解できないけど」

「いえ~い! もしかしたらお嬢様~」

「ウチの扱いはあんま変わんね~(気がすんだけど)」

「あはは~天は向こうでも貧乳だもんね~」

「チクショー！ どうでも口乳の姉に言わるとマジムカツく
！」

ゴードン突破 外伝の外伝？（後書き）

『いらないと思うけど解説。

『君と響きあうRPG？』

松永久信 ゼロス 風間翔一 ロイド

『絆が伝説を紡ぎだすRPG？』

不死川心 ノーマ 師岡卓也 セネル

『君と殴り……もとい、君が生まれ変わるRPG？』

武田小十郎 ヴェイグ 福本育郎 ティトレイ

『俺が ンダムだ！』

石田三郎 ハレルヤ 那須与一 ロックオン 九

鬼英雄 グラハム

『俺たちも ンダムだ！』

大串スグル カミーユ 長宗我部宗男 ジュドー

京極彦一 ヒイロ

島右近 ガロード 師岡卓也 シン

『とある魔術の？』

源義経 御坂美琴 クリス 神裂火織

『とある町のパン屋の出来事？』

九鬼英雄 岡崎朋也 桐山鯉 古河秋生

『誰かのために生きてその？？』

九鬼紋白

イリヤ

源忠勝

アーチャー

『敵物語?』

桐山鯉

真庭鳳凰

クリス

汽口慚愧

京極彦一

鏑白兵

鉢屋壱助

校倉必

『さてにあの世は見てないよ?』

クツキー1

蔵馬

武田小十郎

飛影

マープル

幻海

『青龍偃月刀の遣い手?』

武藏坊弁慶

関羽(恋姫+無双シリーズ)

ステイシー

関羽(一騎当千)

『犬の夜叉と殺生?』

福本育郎

犬夜叉

毛利元親

殺生丸

『誰が主で誰がメイド?』

川神百代

南斗星

クリス

久遠寺森羅

椎名京

朱子

久遠寺未有

榎原小雪

上杉美鳩

黛由紀江

椰子なごみ

榎原小

『最後はやつぱり強気つ娘?』

川神一子

鉄乙女

椎名京

雪

霧夜エリカ

榎原小

板垣天使

蟹沢きぬ

板垣辰子

大江山祈

とりあえずこんな感じですね。

11月4日は？

「タク？ 何か面白い事でもあったのか？ パソコンの画面見ながら笑ってるけど」

「ああジン兄。今日つて『ユネスコ憲章記念日』なんだって。1946年・昭和21年の今日、ユネスコ国際教育科学機関が発足した日らしいんだ。なんか『文化の日』の次の日つていうのが良く出来てるなって思ってんだ」

「なるほどね」

「うえええん。助けてジン兄～」

「どうしたカズ？ まるで繩張りを追い出されて這へなく迷っている子犬のような気配だな」

「どんな気配なのさー！？」

「大和と京に勉強教えてもらおうと思ったのに相手にされなかつたよ～」

「ついにあの2人も匙を投げたつてわけか」

「そんなに酷いのか……分かった。俺が見てやるから向こうに行くぞ」

「ありがとー！」

「無邪氣について行つたけどなんだろう、ジン兄つて大和や京より

もスバルタな気がしてならないんだよね

「うわああん！ ジン兄、厳しきせんじゅううー！」

「やつぱりね」

11月5日は？

「 ひり凜一、急に帰りに行くといいがあると連れだしたと思つたらこんな所に連れてきて。いつたいひりめどじだ？」

「まあ落ち着け小梅さん。といひで今日が何の日か知つていいか？」

「ん？ 何かの記念日なのか？」

「ああ。今日は何と11月5日の『115えん』の語呂合せで『縁結びの日』なんだ。そしてこれは千葉にある縁結び大社だ」

「ほひ、それで？」

「田頃男田照りの小梅さんのためを思つての後輩のささやかな心遣いだ」

「やうか、心遣いか。ありがとう なんて言ひとでも思つたかこの俗物が！ それは余計なお世話といつものだ！ だいたいお前も似たようなものだろ！？」

「ははは。私は結婚するつもりもないし結婚を催促もされてないからな。すでに左うちわで暮らせるだけの蓄えもある」

「くつ……私は時々、なんでお前の友人をやつしているのか分からない時があるだ」

「ははは。正反対だからこそ長続きするんだよ小梅さん」

1月5日は？（後書き）

自分で書いててあれだけど、この2人の組み合わせ凄く好きです。

11月6日は？

「はあ……」

「どうしたんです小島先生？ 溜息なんか吐いて。悩み事なら相談に乗りますよ？」

「宇佐美先生。いえ、至極個人的な事ですので大丈夫です」

「そうですか。ところで今晚、食事でも？」

「結構です」

「相変わらずとりつくしまもないねえ……」

「母親から見合いの催促をされているらしいからな。憂鬱なんだろ。ちなみに今日は『お見合い記念日』らしいぞ旦人さん」

「気配を消して背後に立つなよ凜坊。そして無駄に必要のない知識もありがとさん。しかしある見合いか……小島先生も頼めば恋人役ぐらいい引き受けたやるのにな」

「貴方には無理だろう旦人さん」

「無理ってなんでそう言い切れるんだ」

「至極簡単で単純明快だ。貴方は何から何まであの人の好みから外れまくってるんだ。掠るどころか大暴投級に外れているのさ」

「遠慮なく言つてくれるねオイ。だいたい小島先生の好みって……」

「性格からして年上はたぶん不可だ。頼るより頼られる事に慣れ切つてゐるからな。母性本能をくすぐる相手が一番だと私は思つてゐる」

「年上不可って……オジサンの夢をあつさうと壊すなよ」

「自分で自分を『オジサン』と呼んでる時点でアホだよね」

「バイトで雇つてた時から思つてたけど、凜坊、お前さん本当に容赦ないね」

「褒め言葉として受け取るよ」

11月6日は？（後書き）

さり気なく凛奈と巨人が知り合いです……

11月7日は？

「ああ！　するこぞキャップ！　その肉は自分が取ろうと思つていたのに！」

「知るか！　早いもん勝ちだぜ！　って、ああ！　俺が狙つてたつみれ！」

「早い者勝ちなのだろ？？」

「あ……あの、そんな喧嘩腰に食べるのはどうつかと……」

「まゆひち、じょせん」の世は弱肉強食、強ければ生き弱ければ死ぬんだよ」

「パネェな京ネエさん。まるで某侍マンガの大悪党の名ゼリフじゅねえか」

「ちつたあ静かに食えねえのかテメーらは。つるさずきて飯が不味くなる」

「はは、しつかし夕飯で鍋つても珍しいよな。いつもならひとりひとりにちゃんとした膳があるのに、こうこうした料理つて余り出でこないもんな。何でか知ってる、ゲンさん？」

「俺に話を振るな。つたく、今日が『鍋の日』だからじゃねえのか。11月7日は立冬になる事が多いし、冬と言えば鍋だしな」

「そうなんだ。教えてくれてありがとうゲンさん」

「勘違いすんな。これ以上つぶやくされると迷惑だからだ。それだけだからな」

(相変わらずツンデレだな)

11月8日は？

「…………」

「なに考え込んでんだ、王モ？」

「ああ、ジンか。ちょっと気になつた事があつてな」

「気になつた事？」

「私は川神流・瞬間回復を使うだろ？ あれはまあ簡単に言えば一瞬で傷を治す技なんだが、ふと思つたんだ。あれって歯が抜けても治るんだろうかと」

「確かに永久歯は抜けたら生えてこないしな……っていうか、どうしてそんな事考えたんだ？」

「なんでも今口は『いい歯の口』で『いい歯ならびの口』らしくてな」

「やうか、11月8日で『118』の詰合せか」

「それでお前はどう思つ？~

「そんなんに知りたいならやつてみればいいだろ？ つてオイなんだ その視線は。まさか俺にやれってんじゃないだろ？~」

「いや、お前なら瞬間回復できそつだし、私がやつてもし治らなかつたら恥ずかしいし、お前に嫌われたら生きていけないからな」

「それぐらいで嫌いになるか。それ以前に、そう思つんだつたら最初から考えるなよ」

11月9日は？

「大和！ 今日が何の日か知ってるかー？」

「今日？ 11月9日だから『119番の日』だろ？」

「日本ではそうなのか。つて違う！ 今日は我がドイツにとって歴史的な日なんだぞ！」

「『ベルリンの壁崩壊の日』なんだろう？ 確か1989年の今日、ドイツ西ベルリンを囲んでいたベルリンの壁が取る壊されたんだよな」

「さすがジン兄殿！ まさにその通り！」

「と言つても、お前も生まれないシリューベックはベルリンから離れているだろ？」

「なんだとー？ 大和貴様、我がドイツの歴史に喧嘩を売る気か！？」

？

「後は1938年に『水晶の夜』事件が起つたり、1918年には帝政が廃止されたりと、11月9日はドイツにとっていろいろ歴史的な節目の日なんだよな？」

「その通りだ！ そうだ！ 父様とマルセイエにも電話しなければ！」

「助かった兄弟」

「相手の機嫌がいい時は水差すような事は言わない方がいいぞヤマ

11月10日は?

「11月10日まで酒とはイイ身分だな釈迦堂」

「なんでえルーかよ。どうだ、お前えもこいつに来て一緒にやらねえか?」

「お断りだネ。そもそもワタシはお酒はやめたんだヨ」

「つれねえな。酒飲んでる時の方が強えっての?」

「だからだヨ。そんな事に頼つては真に強いとは言へないからネ。それに今日は『断酒宣言の日』らしいシ、ビつだい釈迦堂、吾もこれを機に酒をやめてみては」

「冗談じやねえ。俺にとつて酒つてのはライフワークみたいなモンだからな、やめると言われて『はいそうですか』つてわけにはいかねえんだよ。そもそも、なんで今日が『断酒宣言の日』なんだよ?」

「さあ? それはワタシにも……」

「それは11月が英語でNovemberと読む事と10日つて事で『もうノーヴember』、『酒10まる』つて語呂合せかららしいですよ」

「……ジン、子供はもう寝る時間だヨ」

「11月10日まで起きて何してんだお前は」

「モモが苦手なのにホラー映画を見てまして、怖がってたので寝付くまで一緒にいたんです。だからこれから自分の部屋に戻りますよ。それじゃあお休みなさい」

「……興がそがれた。今日はまじり寝るか

「それがいいネ」

11月10日は？（後書き）

特に意味もなくオチもなく、何となく釈迦堂さんを出したかった。

時系列的には神が小学5年ぐらいと思つて下さい。

11月11日は？

「ジン！ 今日は『ポッキーの日』だぞ！」

「らしいな。グリコが1999年・平成11年の11月11日に制定したって事だけど」

「ああ、平成11年11月11日で『1』が6つ並ぶ事から制定されたらしいな。そして今年は2011年11月11日で再び『1』が6つ並ぶ年だぞ」

「やつだな。それで『ポッキーの日』がどうかしたのか？」

「じつも今日は『ポッキーの日』。恋人がいるならやる事があるだろ」

「……まさかと思うが『ポッキーゲーム』をやつして貰つたんじゃないだろな？」

「そのまさかだ。まあやるべ今すぐやるべー！」

「やつてもこいつがモモ、後ろにあるポッキーの箱は何だ？」

「ん？ 11月11日ちなんで11箱だ。もちろん全部ポッキーゲームで食べ尽くすぞ。本当は1111箱にしたかったがそんな金ないしな。不満だったが妥協したんだぞ」

「せめて11本にしてくれ……」

11月12日は？

「しかし、日本でも普段の服は洋服なんだな。テレビと同じなのは京都のあの場所だけか？」

「あのなクリス。何度も言うが京都の映画村は時代劇の撮影のために作られた所で、今の日本は諸外国と変わらないぞ？」

「それはもう十分理解しているぞジン兄殿。ただあれほど素晴らしい服があるんだ。常日頃から着っていてもいいと思うのだ」

「女性の着物ならともかく男の羽織袴はな……そもそも日本に洋服文化が広まったのは明治5年に『礼服には洋服を採用す』っていう太政官布告が出された事から始まるんだ。それまでは礼儀の場といつたら公家風・武家風の和服礼装だったんだけどその布告で廃止になつたんだ。それを記念して今日は『洋服記念日』に制定されているしな」

「なるほど……だからこそ昨今の伝統行事の時は和服礼装が多いのか」

「そういう事だな。洋服文化の広がりで逆に和服の方が礼装がなつたつてわけだ」

「という事はジン兄殿とモモ先輩の婚儀はやはり神前式になるのか？」

「……なんていきなりその話題にいくんだ？　って言つか答えにくらい質問をするなよ」

11月13日は？

「秘密基地で姉さんに膝枕されながら寝る……本当に俺たちの前だと自重しなくなつたな兄弟は」

「いいな～。ねえ大和。私もしてあげるから付き合つて？」

「それは何に対する『付き合つて』だ？ 膝枕だけしてくれるならちがひではないぞ京」

「チイ」

「露骨に聞こえるような舌打ちをするな。そう言えれば今日、11月13日は『いいひざの日』らしいな。『1113』なんていう安直な語呂合わせからうしいけど」

「なるほど。だからモモ先輩は膝枕してるんだね。でもあれつて……」

「それ以上は言つな京」

「本当は『膝』枕じゃなくて『太腿』枕だよね。本当に『膝枕』をしたら痛いし変な体勢になるよね」

「世の恋人たちの幻想をぶち壊すなよ……」

11月14日は？

「おい京、なんだこの大量のオレンジジュースと映画のDVDは？
そして何故それを俺の部屋に持ち込んでいるんだ？」

「知つてた大和？ 今日は『オレンジティー』で『ムービーティー』。
恋人同士が一緒にオレンジジュースを飲む日と一緒に映画を見る日
なんだつて」

「だから何で俺の部屋に持ち込む」

「やだもうー それを私の口から言わせるなんて！ 今日は一日中
部屋に引き籠つてDVDを見よ。そして大好きです大和」

「どんなテンションだお前は！？ それからお友達で」

「……モモ先輩が羨ましい。喜々として大量のオレンジジュース買
つてレンタルDVD借りていったのにな……」

「兄弟はオレンジジュース好きだし映画もよく見るからな……なん
かあの2人のための日に思えてきたぞ……」

「ここには対抗して私たちも！」

「だからお友達で願いします」

11月14日は？（後書き）

韓国では毎月14日は恋人に関する記念日になっています。
従つて14日は基本、大和と京のネタでやっています。

11月15日は？

「やう言えば今日は『七五三』ですね。みなさん何か思い出はありますか？」

「ちなみにまゆうちは3歳の時も7歳のときもひやんと着物着て写真撮つたんだぜー」

「期待に応えられないけど僕はないね」

「そもそも俺様、今日が『七五三』だったのも初めて知ったぜ」

「やつたことないね」

「アタシもー」

「やつたとしても覚えてねーよ」

「自分はやつたぞ。3歳の時も7歳の時も。父様が着物を買つてくれて写真も撮つたんだ。日本ではあまりやらないのか？」

「さすが日本かぶれ。でも本格的に祝うのは金銭的に余裕のある家か、昔から慣例になつてる家だけだろ。あとは近くに祖父母が住んでる家ぐらいか？今はレンタルで安上がりだからそれほどでもないかもしけないけど、基本的には3歳の時しかやらないんじやないかな。兄弟や姉さんはやつぱり寺院だからちやんとしたのか？」

「まあな。俺は紋付袴、モモは着物着てな。そつ言えば7歳の時は着たくないつて駄々こねてたなモモは

「あんな動きにくいもの誰が好き好んで着るか。それよりもタカ、お前やつきからなに黙つてるんだ?」

「あ、分かった。さつと凛奈さんに着物着せられて化粧もされたんだ」

「いやミヤ、さすがにそれはないだろ。そうだろヒロ?」

「……3歳の時は記憶にないけど袴と着物、両方着た写真があるんだ。5歳の時は普通だつたけど、なんで7歳の時に着物着て化粧して写真と撮らされたんだろうね僕……」

()()()()()(笑い話だけ)笑える雰囲気じゃない)()()

11月16日は？

「あ～いいね～無垢な娘は可愛いね～」

「トーマ。準が病氣だよ～？」

「指をさしてはいけませんよユキ。準のアレは一生ものの病なんですから。生温かく見守つてあげるのが友人といつものですよ」

「知ってるか若、ユキ。1876年・明治9年の今日、日本で初めての幼稚園『東京女子師範学校付属幼稚園』、現在のお茶の水女子大付属幼稚園が東京の神田に開園したんだぜ。だから今日は『幼稚園記念日』に制定されているんだ」

「準は博識ですね」

「う～ん、それって凄い事なのかな～？」

「俺もお手て繋ぎたいな～」

「トーマ～、警察呼んだ方がいい～？」

「ユキ、例えどんな変態であろうとも友人を国家権力に売り渡すのはいただけませんよ」

11月17日は？

「ガクとカズはこれで王手。終わりだな。クリス、その駒をそこへ打つとあと10手目で王手な。逃げ道考える。タク、自分ばかりじゃなくて相手の駒の動きも考える、そのまま打てば22手目に王手だぞ。ミヤ、ヤマの手の真似ばかりするな。自分で考えて打て。ヤマ、長考は構わないけど人の裏ばかり読んでないでたまには正攻法でこい。それからキャップ、頼むから少しは定石に囚われてくれ」

「ねえマヨ、暁君たちなにやっているの？」

「見ての通り将棋ですよ千花ちゃん」

「いやそれは見れば分かるから。だから何で暁君ひとりで風間ファミリー全員の相手をしてるの？」

「実は風間君がどこからともなく大量の将棋盤を持って来てまして、何でも今日は『将棋の日』らしいのでみんなで打とう提案したんです。それで暁君が多面打ちが出来る仰ったので……」

「それでこの状況ね。でもいくら多面打ちができるからって7人同時に相手するって……相変わらず非常識よね暁君は……」

「モモ先輩の彼氏さんですから」

「そのひと言で付くつてこいつのもある意味で凄いわよね

11月18日は？

「知っていたかジン。今日は『土木の日』ひじいぞ」

「『土木の日』？ 土木建築の日って事か？」

「そうだ。何でも1879年・明治12年に工学会、今の日本工学会が成立され、1987年・昭和62年に建設省、今の国土交通省の支援で制定したらしくんだ。それでどうして今日かといつと、『土木』の字を分解すると漢字で『十一十八』になる事か？」

い

「よく知っていたな

「まあな。以前バイトした時に建築家のおっさんが教えてくれたんだ」

「なあモモ、俺はどうに突っ込めばいい？ お前も女なんだからガテン系のバイトをするのはどうかと迷つんだが……？」

「ガテン系は日当だし割がいいんだぞ？ 借金返済に追われていた時はよくやつたなあ」

「遠い目になるのはいいが、そもそも借金をするな

「今はしないだろ」

「どうやら反省の度合いが浅いようだ。もう少し説教が必要のようだな？」「

「藪蛇だつたか
」

11月19日は？

「ねえみんな知つてた？ 今日は『鉄道電化の日』なんだよ。1956年・昭和31年の今日、米原～京都間の鉄道が電化されて東海道本線全線が電化したのを記念して、鉄道電化協会が1964年・昭和39年に制定したんだ。そもそも電車つてのは知つての通り蒸気機関車が始まりなんだけど、日本では1872年・明治5年に開業したのが始まり。電化の鉄道が登場したのはそれほど経過していない1890年・明治23年、上野公園で開かれた第3回国勧業博覧会で日本初の電化鉄道、つまり電車の運転が披露されたんだ。営業運転されたのはその5年後、京都市で京都電気鉄道が開通。この運営は官営鉄道、後の国鉄、今のJRが運営していくけど、一般の鉄道では甲武鉄道が1904年・明治37年に飯田町～中野間を電化したのが始まり。その後に甲武鉄道は国有化されるからこの飯田町～中野間がそのまま国有鉄道初の電化区間になつたんだ。それから大正、昭和を経て鉄道の電化が進んでいくんだけどあれ？ みんなどこ行つたの？ もうい、話はまだ続くんだけど？」

11月20日は?

「なんだここの大量のピザは?」

「やあ暁君」

「クマちやん。おなかとは思つがパン全部食べりつもりか?」

「わいだよ。なんていつたつて今日は『ピザの日』だからね」

「ピザの日?..」

「うん。凸版印刷が1995年にピザをイタリア文化のシンボルとしてPRする日として制定したんだ。なんで今日かとこつのはピザの原型のピッシア・マルゲリータ誕生に関係した、イタリア国王ウンベルト一世の奥さんのマルゲリータの誕生日だからなんだ」

「食の事になると本当に博識だなクマちやんは。だけども」

「『ハラ熊谷』、学校にピザのデリバリーを頼むとは何事だー?」

「わあがにそれはやつすぞだる……」

11月21日は？

「肉！ 肉！ 肉！！」

「落ち着けワン子！ 食べのものは逃げない！」

「何言っての大和！ 逃げるわよ！ 主にキャップとガクトの畠袋に！」

「ねえジン兄、なんなのこの大量のチキンは？」

「ヒロか。なに今日は『フライドチキンの日』だからな。さつきケン・ツキーで50ピースほど買って来たんだ」

「50ピースって……まあ、キャップと岳人君と一子ちゃんがいるから大丈夫だね。それで？ あの2人はなにやってるの？」

「みんな集合するまでおあづけされてんだが、目の前の獲物に本能が抑えられないみたいだ」

「肉！ 肉！ 肉！ 肉ううう！！」

「ちよつ！？ 落ち着けワン子！ 俺の腕を噛むな！」

「既に野性と化してゐるね」

「1-1月22日は?」

「……」

「機嫌いいわねお姉様。どうしたの?」

「おお、ワン子か。決まつてこるだろ、今田が1-1月22日だからだ」

「えつと……今日つて何かあつたつけ?」

「なにを言つてこるワン子。今日は『いい夫婦の日』じゃないか!」

「え、えつと……?」

「あー、ジンが帰つてきた! お帰りなさいあなた。お風呂に入る?
食事にする?」

「……なあモモ、いつたいぜんたい俺はなにから突つ込めばいい?
それともノリ良く答えるのがお前のためなのか?」

「もうだだ。今日は『いい夫婦の日』なんだ。もう一度やるからち
ゃんと答えるよ」

「まだ夫婦じゃないつて言つシッハ! せしない方がいいんだうな
……」

「さあ行くぞ! お帰りなさいあなた。お風呂入る?
食事にする?
それとも、わ・た・し?」

「……良しモモ、最初にどう答えればいいか、そこから教えてもらおつか」

「ジン兄も大変だなあ……」

11月23日は？

「ジン兄で決まりだよね」

「やうよ。だってジン兄だもん」

「何を指して『だつて』かはよく分からんが自分も賛成だ」

「キャップせんも当てはあるんじゃないでしょうか？」

「確かにキャップも素養あるけど、年が離れてたらね。1・2歳ぐらいの差だと余りそう感じないね」

「せつときから何の話だ？」

「お姉様。あのね、今日が『いい兄さんの日』らしいから、ファミリーの男子で誰が1番お兄さんっぽいか話していたの」

「11月23日で『1123』か。確かにジンが1番お兄さんっぽいな。ファミリー内での立場もまさに『兄貴』だしな。ま、ワン子にしてみれば将来は本当に『お義兄さん』になるし問題ないだろ」

「？」

「おおお」

「じつこつ意味だ？」

「あの、それって……」

「さつ氣なく惚氣るなんて丸すがモモ先輩だぜ」

11月24日は？

「今日は『進化の日』なんだって」

「なんだそりゃあ？ ゲームの関係か何かか？」

「違うよ。1859年の今日、ダーウィンの『種の起源』っていう本の初版が刊行されたんだ。それを記念しての日なの」

「ガクトも早くゴリラから人間に進化するといいよ」

「テメエー京。俺様を馬鹿にしてんな」

「靈長類に分類してあげただけでもありがたく思つて欲しいよね。前も同じこと言つたけどガクト、靈長類の意味知らないでしょ？」

「ぬつ……」

「なんで言つ返せなこののさ。それって殆ど一般常識だよ？」

「ガクトは進化よりもモロと融合して合体した方がいいじゃない？」

「またそのネタなの！？」

11月24日は？（後書き）

ゲーム序盤と終了メッセージネタ。
分かる人にしか分かんないかな
……

11月25日は？

「なあ、兄弟」

「なんだヤマ？」

「実は今田は『女性に対する暴力廃絶のための国際デー』なんだ」

「何となく言いたい事は分かるが聞いてやろう」

「ありがとうございます。女性が男性より身体的、世間の立場的に弱いのは認めます。理不尽な暴力は許されないことだというのも確かだ。だがなぜからといって女性の暴力を野放しにするのはいかんと思つんだ」

「疲弊しきつてるのはそのせいか」

「クリスに教えた嘘がバレて蹴られて、それに便乗した姉さんに関節極められ、姉さんの命令でワン子に殴られ動けないとこを京にすり寄られ、まゆっちはオドオドして見てるだけ……」

「同情してやるが原因が自業自得だ」

11月26日は?

「はあ～。いい湯だなあ～」

「オヤジくせいでモモ 痛つ」

「ほんと美少女に對して『オヤジくせ』とはなんだ。失礼な事言
うと呪くぞ」

「もう呪いた後だろ……しかしあれだな。もう一緒に風呂に入るの
が当たり前になつたな」

「やつだなあ……やつれば今口は『ここ風呂の口』りしこな」

「『ここ風呂』? ああ、『11126』の語呂合せか。それがどうかしたのか?」

「いや、特にどうと云ひわけでもないが……やつだな。ここ風呂にするために私がお前の体を洗つてやる。私の身體を使って」

「なんだ、そのいかがわしい店のような提案は、却下だ却下」

「ふう～ん? あれか? あそこが元気になるからやめられて事か
?」

「もう少しオブラーートに包んで詰め。つて詰つかお前はもう少し女
らじい羞恥心を持つよ」

「ふん。お前の前で何を恥ずかしがる必要があるとこうんだ。もう

お母さん、全てを知つてこそいいのよ

「やれやれだが……」

「ア、アダルトだわ。でもお姉様もジン兄ももう少し声を抑えてしま
しいな……脱衣所まで声が聞こえていいんだけど……」

11月27日は？

「そこに並べお前たちー。」

「おいヨンパチ、なんでウメ先生あんなに怒ってんだよー。」

「俺が知るか！」

「許可なく喋るな俗物！ 島津！ 福本！ 今日が何の日か知っているか！？」

「「いえ… 知りません！」」

「今日は『更生保護記念日』だ！ 刑務所から出所してきた者に更生の道を開く事を目的しているー。」

「ウメ先生！ いくらなんでも犯罪者扱いは酷いと思います！」

「うだぜ！ 僕たちは自分たちの湧き上がる思いのまま行動したまだだせー！」

「その結果が女子更衣室を覗く事か！？ 反省していないようだな！ いいだろう！ 今日はお前たちが泣いて許しを請うとも徹底的に指導してやるー。」

「「そ、そんなああ～」」

「そもそもなんで止めようとした僕も一緒に怒られてるんだひ……

11月28日は?

「『税関記念日』ねえ……」

「どうしたやマッ?」

「ああ兄弟か。こや、最近ＴＰＰが話題になつてゐからじゅつと調べてたんだ。そしたら今日が『税関記念日』つて出でてきたから」

「なるほど。税関は関税を取り扱う部署だつたな」

「あまり関係あるまいとは思えないけど、まあ一つの知識にはなつたよ」

「ちよー!? なんで頼んだ本の倍の金を請求すんだよモモ先輩!?!?」

「代行料と運搬料だ。いいからひとつ出せガクト」

「理不気だりそれー!?!?」

「さて、俺はあわいで暴利を貪る悪徳税関所をひょいと説教していくる」

「姉さんを説教できるのって、兄弟と鉄心さんだけだよな……」

11月29日は？

「今日はなんでも『いい服の日』らしいぜ。『獵犬』」

「『いい服の日』？ 何故今日なのですか、『女王蜂』？」

「11月29日だから『1129』の語呂合わせだよ。日本にはもうこうした記念日が多いんだよ」

「なるほど、理解しました。それで私にそれを教えてどうしようかといつのですか？」

「別に。ただテメエもたまには軍服以外の服を着たらどうかと思つてな」

「その言葉、そっくりそのまま返しましょ。貴女こそメイド服以外の服を着てはどうですか？」

「ふざけんな。メイド服は英雄様の従者つていう証であたいの誇りでもあるんだ。言われてはいそうですかつていくか」

「それには肯定しましょ。私の軍服も私の誇りです。何より服というものは機能性と動きやすさを重視で選ぶべきです」

「それには同感だな。チャラチャラした服の何がいいんだか」

「女2人が服の話題で全く盛り上がりんとは……これから野蛮な輩は嫌なのじや。女といつもの着飾つてこそ、その魅力を發揮す

1月30日は？

「なあ由紀ちゃん」

「はい？」

「カメラのオートフォーカスは便利だが私は氣に入らんのだ。あれは素人にはありがたいが、やっぱり玄人は自分でちゃんとピントを合わせてこそのカメラだと私は思うんだ」

「えつと……いきなりどうしたんですか？」

「ああ、すまない。実は今日は世界初の自動焦点カメラオートフォーカスが発売された日で『オートフォーカスの日』なんだ」

「そうなんですか。そう言えば凛奈さんはカメラをたくさん持つていましたね。趣味なんですか？」

「趣味……と言えば趣味だ。正確に言えば趣味のために必要なものだから持つている、だな」

「趣味のために必要なもの、ですか？　ところで凛奈さんの趣味って……」

「決まっているだろ？　緋鷺刀の成長記録を取ることだ」

「えつと……」

「それだけのためにプロ顔負けの写真撮影の技術を身につけたって

か……やつぱペネロギ凜奈つわせ……

12月1日は？

「う~ん……」

「携帯を眺めながら何を悩んでいるんだまゆっち？」

「壊れたの？」

「あ、クリスさん、京さん。いえたいしたことではないのですが、携帯の着信メロディは設定した方がいいのかと思いまして」

「ん？ どういう意味だ？」

「タ力さんが仰っていたのですが、ファミリーだけでも普通の着信音と変えておいた方がいいと……」

「なるほど、そういう事。確かにその方が誰から掛かってきたのかすぐ分かるからね」

「京さんは設定しているんですか？」

「もちろん。ちなみに大和だけさらに別設定にしてあるよ」

「予想通り過ぎるな。まあ自分も父様やマルさんは別設定にしているがな。そういうえば今日は『着信メロディの日』らしいな」

「や。1999年の今日、世界で初めて着メロの配信が行われたんだよ。ちなみにこれが大和から掛かってきた時の着メロ

『京……お前を一生放さない……何度も生まれ変わらうとも俺はお前に添い遂げてやる』

「な、なんだその着ボイスは！？」

「や、大和さんが吹き込んだんですか！？」

「ううん。ジン兄に頼んだ。あの人、恐ろしいまでに声真似が上手いんだよ。それこそ本人と聞き間違うぐらい。しかも男女関係なく」

「ジ、ジン兄殿の意外な特技があらわになつたが……」

「さつきの着ボイスのインパクトが強すぎですよ……」

12月2日は？

「宇宙！ いつか行つてみたいぜ！」

「キャップはいきなりどうしたんだ？」

「あ、大和。いやさ、今日が『日本人宇宙飛行記念日』だつて教えたら……」

「なるほど。あの反応は予想通りだな。そう言えばモロ、日本人初の宇宙飛行を成功させたのは誰か知ってるか？」

「え？ 誰つて毛利衛さんじゃないの？ あれ？ そういえばあの人は1992年の9月だったよね？ 今日が『日本人宇宙飛行記念日』だつてことは違うの？」

「その通り。日本人初の宇宙飛行を成功させたのは秋山豊寛さんだよ。でも宇宙か。俺も死ぬ前に一度は行つてみたいな」

「ジン兄とかモモ先輩はなんか生身でも行けそうな感じするけどね」

「さすがにあの2人も無理だろ……成層圏ぐら~いまでなら生身で行けそうだけどな」

12月3日は？

「そう言えば今日って『プレイステーションの日』なんだよな

『『プレイステーションの日』？』

「ああ、今俺たちが遊んでるゲーム機の初代プレイステーションが1994年に発売されたのが今日なんだ」

「ふうん。これがプレイステーションって事は三代目って事か？」

「そりやそりや。このプレイステーションが発売された時、俺は記憶喪失で日本にいなかつたんだから」

「あ、そうだつたな」

「ちつくしょおお！ また負けた！」

「代われキャップ！ 次こそ俺様がぶつ倒してやるー！」

「今日初めて触ったゲーム機で初めてプレイする格ゲーなのに1時間もしないでパーフェクトで10連勝って……」

「しかも大和君との会話の片手間だよ……」

「「さすがジン兄としか言えないねよね」「

12月3日は？（後書き）

PSの発売日は1994年12月3日。
PS2の発売日は2000年3月4日。
PS3の発売日は2006年11月11日。
この間隔で行けばPS4（仮）の発売は来年だね。
まさかそれがPSVitaなのかな？

1・2月4回は？

「やつと言えば今日『E・T』なんだけど。みんなはどんな映画が好き？」

「『E・T』の『E・T』だあ？ なんだそりや」

「映画の『E・T』だよガクト。1982年・昭和57年の今日、日本で公開されて『もののけ姫』に抜かれるまでは日本歴代最高の配給収入を記録していたんだ。まあそれは置いておいて、それでさつきと回じ質問だけど、みんなはどんな映画が好き？」

「ただひたすらにアクション映画だな」

「アタシもお姉様と一緒に！」

「自分はやはり時代劇だな」

「時代劇、いいですよね。私も好きです」

「愛憎渦巻くドロドロの恋愛もの。あるこそ//ステリードね」

「冒険活劇が俺の血潮になるぜー！」

「俺様もキャップと同意見だな。モロはビッグアニメだろ」

「別にいりでしょ。日本のアニメは世界に誇れる文化なんだから。ジョン兄たちば？」

「これと言つてないな」

「同じく。俺は話題作りのためいろんなジャンルを見るから」

「ホラー。洋画よりも邦画の方が好きかな。リ グとか好きだよ」

「意外な一面だね、タカ……」

12月5日は？

「犬っ娘。今日が『バミュー・ダトライアングルの日』なのは知つているか？」

「ばみゅーだとらいあんぐる？ 何それ？」

「ふむ、心して聞け。バミュー・ダトライアングルとは男にとつて女の未知の領域の事を言つんだ。つまりは女のせい かふつ…。」

「なにカズに変な事を教えようとしているんですか凛奈さん」

「ジン兄？」

「カズ、知りたければヤマかタクに聞け。間違つてもミヤヒモモには聞くなよ」

「うん、分かつた！」

「……さて、何をしようとしてたか教えてもらえますか？」

「だからってお前……親指を弾くだけで圧縮された空氣の指弾なんか撃つな。おかげで額が赤くなつたろ」

「反省していませんね？」

「いや！ 反省した！ 反省している！ だから指を鳴らしながら満面の笑みを浮かべて近付いてくるな…」

「凛奈さん。貴女も作家なり知つてこぬでしょ」
「『墨答無用』つて言葉を？」

「お前こへりなんでも過保護すがるだらーー？」

「凄いよね……あの凛奈さんをほんの少しでも
レジン呪だけだよ」

12月6日は？

「大和、ジュース持つてこい」

「はいはい」

「大和、お腹すいた、お菓子ちょうどいい」

「はいはい」

「……大和はいつたににをやつてるんだ？」

「あれね。実は今日つて『姉の日』なんだけど、それを知ったモモ先輩が大和相手にその権限をフルに使っているんだ」

「その権限を実の妹の一子ちゃんに使わず舍弟でしかない大和君に行使するあたり、さすがって言つかなんて言つか……」

「あれは“姉”というより“暴君”だよね……」

「そうか、今日は『姉の日』なのか……自分もマルさんに何かしたら喜んでくれるだろうか？」

「喜びすぎでおかしくなるんじゃない？」

「逆にクリスさんを甘やかしそうな気がしないでもないね……」

12月7日は？

「もう後2週間もしたらクリスマスだな」

「やうだな。といひでクリスマスの装飾が始まってるしな」

「そりいえば今田は『クリスマスツリーの田』だな。何でも日本で初めてクリスマスツリーが飾られた田らしいぞ。といひで小梅さん、今年こそはクリスマスぐら」いや、何でもない

「何を言い掛けたか非常に気になるし、何を言いたかったかなんとなく分かっているが、聞かなかつた事にしてやる」

「そいつはひつむ」

「やあ小島先生。よろしければクリスマス、一緒に食事でもひつむすか？」

「結構です。既に篁先生と食事の約束をしておりますので」

「そりですか……ハア、世知辛いねえ……」

「いつの間に私と約束をしたんだ、小梅さん？」

「方便だ。最近誘いがしつゝて辟易していたんでな。すまないがお前を利用させてもらつた」

「謝る事はないさ。なら方便を本当にすればいいだけだ。それじゃあクリスマスに何の予定もない小梅さんのために私は予定を空けて

「おへとやなめく」

「強調するな、殴りたいか凜」

1-2月8日は？

「今より70年前の今日、1941年の昭和16年に日本軍が真珠湾を攻撃し、この日より3年6ヶ月にも及ぶ太平洋戦争が始まった……今日は日本が愚かな戦争を起こした日として『対米英開戦記念日』はたば『太平洋戦争開戦記念日』になつておる」

「またジジイのくだらん戦争語りか」

「くだらんとは何じゃモモー！」

「実際くだらないだろー。戦争がどういひづきわれても私たちは生ま
れてすらいなかつたから実感なんて湧くか！」

「そんな考えが既に間違つておると云ひのこーええい、そこそこな
おれモモー！ 今日はみつちり説教をしてやるわー！」

「上等だジジイー！ やれるものなら力づくでやつてみひー！」

「あ～あ、また始まつたネ。それじゃあワタシは門下生を避難させ
るから、あとはよしひょん頼むモジン」

「ハア……結局止めるのは俺なんですね

12月9日は？

「また政治家が汚職で捕まつたってたね」

「ああ、ついでに言うとその政治家の秘書も横領で捕まつたな」

「今日は『国際腐敗防止』だつてのに意味のなさ」「コースだな」

「おい大和、なんだそれは？」

「ん？　ああ、今日は『国際腐敗防止』と書いて、贈収賄・横領などの汚職・腐敗行為の防止を目的とした『国際腐敗防止条約』が調印された日なんだ」

「なるほど、確かにそんなニュースが今日流れてたら意味のなさい記念日だな」

「兄弟の言つ通りだ。まあ、政治家と汚職つてのは切つても切れないやつらしげにけどね」

「なあ大和。お前、政治家になるんだろう？」

「確かになりたい職業の一つではあるけど……急にどうしたの姉さん？」

「なに、もしあ前が政治家になつて汚職にまみれた政治家がいたら私に教える。私とジンとタカが必殺仕人の」とくお仕置きしてやるからな」

「…………」

「モモ、面白い面白いくないの判断で適當な事を言つた。それに日本には公的に認められた殺人許可はないぞ」

「それ以前に僕を巻き込まないでよ…………」

「なんだよ、リアクション悪いな。お前たちなら出来そうじゃないか」

「出来る出来ない以前の問題だと思つて、姉さん…………」

12月10日は？

「さあ大和、お姉さんと遊ぼう！」

「姉さん！ 今日は国連総会で『世界人権宣言』が採択された『世界人権デー』だ！」

「それがどうした？」

「俺は舍弟として、いや、人としての人権の尊重を提言したい！」

「甘いな大和。人権とは法制度があつて初めて効果を發揮するものだ。お前と私の間に法なんてものは存在しない。したがつて舍弟に人権などないのだ！」

「それなら舍弟契約も意味もないさいぞ、姉さん！」

「ぬう……」

「契約つて契約者と被契約者の間で交わされる約束のようなものだから、必ずしも法が関係するとはいえないんじやあ……」

「ナイスフォローだジン！」

「余計なこと言つた兄弟！」

「さあ大和！ 舍弟として私の退屈を晴らさせりー。」

「そういうのは兄弟の役目だろ！？ めめああああー！」

「……ヤマトは運こいといったな。おひでの向かねりがいいわ

12月11日は？

「ああ！ 今日は自分が夕飯を作つたぞ！」

「お嬢様が丹精込めて作つた手料理です。感謝の限りを尽くしてしつかりと味わいなさい」

「オイ大和！ なんだこの罰ゲームは？」

「俺が知るか！ なんかしらんが急にクリスが料理しだしたんだよ！ しかもマルギッテがいるから文句も言えないし！」

「京とまゆつちとゲンさんは！？」

「まゆつちとゲンさんは凛奈さんにお呼ばれ、ゲンさんはバイト、京は用事があるとの建前で危険を察してそそくさと逃げた」

「オイお前ら」

「ゲンさん！」

「僕らのゲンさん！ 帰つてくれたんだね！」

「誰がお前等のだボケが。まあいい、コトヤムヒ

「『胃腸薬？』」「

「何でも今日は『1211』の詰合せで『胃腸の日』らしいからな。食つたあとにでも飲んで。じゃあ、俺はバイト先でメシ食

つたから晩飯はこりねえからな」

「「ゲンせん……優しさが身に染みるが出来れば止めてくれよ……」

「

「さあ！ 大和にキャップ！ たくさん作つたからどんどん食べて
くれ！」

12月12日は？

「そりいえば今日つて『漢字の日』だね」

「『漢字の日』？ 日本にはそんな日まであるのか？」

「まあな、今日が12月12日つて事で『1212』語呂合わせだけどな。コースでもやつてるだろ？ 清水寺でその年の世相を象徴する一字を発表されるつてやつ」

「もうそんな時期か？ あ！ いいこと思いついた！ 僕たちもそれやろうぜ！」 クジで決めた相手を漢字一字で表現するんだ！」

「また唐突だなキヤップ」

「よーしー それじゃあやるぜー！」

一子 クリス 「栗」となはんだこの犬！」

クリス 由紀江 「まともなもので良かつた……」

由紀江 京 「さすがまゆっち、良く分かって
る」

京 大和 「京」 「主役を分かつてない！ これは
お前の願望だろー！」

大和 百代 「暴力」 「いい度胸だな弟よ」

百代

岳人

『愚』

「あ、これってなんて読むんだ

?』

岳人 頂也 『弱』 「どうせ『ひ弱』とか『脆弱』つて意味なんだろうな」

卓也 奔 『奔』 「なあモロ。これってどう意味だ?」

翔一 緋鷺刀 『女』 「ねえキャップ。僕を怒らせたいんだ」

翔一 緋鷺刀 『万』 「……これはどう捉えればいいんだ?」

神 一子 『純』 「これって褒められてる?・褒められてるよね?」

神

一子

『純』

「これって褒められてる?・褒められてるよね?」

12月12日は？（後書き）

ちょっと解説。

『栗』……言わずもがな　『礼』……礼儀正しい　『愛』……これ
も言わずもがな
『京』……願望そのまま　『暴』……暴力・暴君　『愚』……愚か
『奔』……奔放　『弱』……ひ弱・脆弱　『女』……女顔だから
『万』……万能　『純』……純情

こんな解説いらないよね～

12月13日は?

「まゆっちとタカは似ているよな」

「えっと……急にどうしたんですか、クリスさん?」

「いや、ふと思つただけで深い意味はないのだが……何といつか雰囲気とか性格とか、そういうものがよく似ているなあと」

「誕生日も同じだしね。外見も何となく似てる気がするし、男女だから一卵生双生児と言われても信じちゃいます」

「うん、自分も信じるな。タカがお兄さんでまゆっちが妹だ」

「その意見賛成。ちなみに関係ないけど今日は『双子の日』らしいよ。何でも1874年・明治7年の今日に『双子の場合は先に生まれた方を兄・姉とする』っていう太政官指令が出たんだって」

「おお、日本にはそんな政治指令があつたのか?」

「私たちが話題だったのに置き去りにされてるような気がるのはなぜいでしょうか?」

「まあ、風間ファミリーによくあることだよ」

12月14日は？

「なあモモ……」にこるのが仲間内だけとはいえ、そろそろ離れてほしいと思わぬくもないんだが？」

「いいだろ、今日は『ハグティー』といつ恋人同士が抱き合って寒い冬を暖かく過ごす日なんだ。だから私はお前に抱きつくるのをやめつつもりはない」

「でも今の姉さんは抱き合っているんじゃなくて、兄弟にただしがみついているだけにしか」

「なんか言つたか大和？」

「何も言つてないよ」

「羨ましい、ああ羨ましい、羨ましい、羨ましいったら、羨ましいな」

「京……なんだその羨望まみれの短歌は……」

「今私の心の叫び。ねえ大和」

「お友達でお願いします！」

「もはや『フォ』になつたやり取りすら前倒しかヤマ……」

12月15日は？

「大和！ 東京に行きたいぞ！」

「いきなり何だ？」

「いやな、さつきネットで知ったんだが、何でも今日は『観光バス記念日』『ひじいじやないか』

「それは分かつたけど、なんで東京に行きたいになるんだ？」

「東京には『はとバスツアー』なるものがあるというではないか！」

「ああ、だから東京に来たいのね……」

「なあなあ大和。俺いいこと思いついたぜ」

「いやな予感しかしないが聞いてやる。何を思いついたんだキャップ？」

「川神でもバスツアーをやるひづぜー 見て廻る所なら東京にも負けねーと思つんだ！」

「おお！ 素晴らしいアイデアだ！ キャップ！」

「クリスもそう思つだろ！ よおうしー そつとなりやあすぐにでも草案を作つて市役所に殴り込みだ！ 大和ー お前も手伝え！」

「頼むから俺を巻き込むなー！」

12月16日は？

「1890年・明治23年の今日、東京市内と横浜市内の間で日本初の電話事業が開始した。故に今日は『電話創業の日』とされている。加入電話は東京が155台、横浜が45台。ちなみに当時の電話は直通ではなく取次のものだったらしく日中は7人の女性、夜間は2人の男性が交換手として対応していたらしい」

「凛坊、オジサン、蘊蓄はどうでもいいんだが」

「そう考えると日本の電話は100年ほどで携帯できるほどにまでなったという事だな。あ、お姉さん、焼酎をロックと熱燗3本。たこわさ、あんきも、軟骨の唐揚げも追加で」

「オイオイ、どんだけ飲むし食つんだお前さんは」

「巨人さんの奢りなのだから当然遠慮などしないさ。それに今の私にそんな強気に出ていいのか？ 小島先生の携帯番号を知りたいんだろう？」

「足元見るねえ……前から思つていたが、本当に可愛げがないなお前さん」

「可愛げなんぞ母親の腹の中に置き去りにしてきたさ。すみません、お刺身の盛り合わせもお願いします」

「……本当に容赦ねえな。で、そろそろ教えてほしんだが？」

「ああ、その事なんだがな。実は小島先生に『宇佐美先生にだけは

決して教えるな』という事ですでに買収済みなんだ。本当に申し訳ない。ハハハハ

「……つまりあれか？ オジサン奢らせて揃つてわけ？」

「ハツハツハツハツハ

12月17日は?

「なあガクト」

「なんだよモモ先輩」

「私は人は信じれば空を飛べると思つんだ」

「こきなりな話題だなオイ」

「何でも今日は『飛行機の日』らしくてな。あのライト兄弟が飛行機での初飛行を成功させた日らしいんだ」

「で? それと今俺様が屋上に呼ばれた事に何の繋がりがあるんだよ?」

「なあガクト。私は人は信じれば空を飛べると思つんだ」

「いやだからそれはどうでも つてオイ!?. もさか!?.」

「とこづわけで飛んでみろ!..」

「結局このオチかよ!?.」

「高く飛んでるねガクト」

「10メートルは飛んでるね」

「オイ！ なにのんびりしてこるんだー？ いくらガクトでもあの高さから落ちたら死ぬぞー！」

「問題ない。兄弟が側にいるんだ」

「やのひとで付くなんて……相変わらずパネロゼ、ジン兄は。オイラマジで尊敬するぜ」

「本当に困った時の神頼み』ですね」

「まゆ、上手い事言つたつもりなんだろ？ハジケ、それ、シャレじやなく本当にその通りなんだけどね」

12月18日は？

「そりいえば今日ニュースで『東京駅完成記念日』と言っていたが、東京駅は何年に完成したんだ？あの赤レンガ造りの建物はかなり年季が入っていると思うのだが……そりいえばモロはそういうの詳しかつたな？」

「うん。いいよ、教えてあげる」

「すまないな。あれ？ みんなどこに行つたんだ？」

「あのね、東京駅が出来た理由はね、1889年に国鉄東海道本線の新橋～神戸間が全通、私鉄の日本鉄道が上野を始発駅として青森に向けて線路を建設していたんだ。そこで新橋と上野を結ぶ高架鉄道の建設が東京市区改正企画によつて立案されて、1896年の第9回帝国議会でこの新線の途中に中央停車場を建設する事が可決された。それが東京駅なんだ。だけど実際の建設は日清戦争と日露戦争の影響で遅れて、工事は1908年から本格化して、1914年の今日、12月18日に約6年半かけて完成、同時に『東京駅』つて命名された。だから今日が『東京駅完成記念日』に制定されたんだ」

「あ、ああ、そうなのか？」

「それでね、東京駅はその名の通り東京の表玄関とも言えるターミナル駅で、プラットホームの数は日本一多くて、在来線が地上5面10線、地下4面8線の合計9面18線。新幹線が地上5面10線。地下鉄が地下1面2線あるんだ。ちなみに面積は東京ドーム約3・6個分。赤レンガ造りで有名な丸の内口駅舎は1914年竣工で、今は国の重要文化財に指定されているんだ。それから乗り入れてい

る路線なんだけど　　「

「これはいつまで続くんだ?
のか……」

みんなはこれが分かつていて逃げた

12月19日は？

「1910年・明治43年の今日、東京の代々木練兵所、現在の代々木公園で徳川好敏工兵大尉が、ライト兄弟の人類初飛行に遅れる事7年。日本初飛行に成功した。飛行時間は4分、最高高度は70m、飛行距離は3000mだった。そしてそれを記念して今日12月19日は『日本人初飛行の日』とされた」

「淡々と語つてるとこひる悪いんだけどさ、あれを止めようとしないの、大和？」

「何故止める必要があるんだモロ？ そもそも俺如きが止められるとも？ 止めたければヒロを呼んで来い」

「いや、ガクトを庇うわけじゃないけどあれってどう見ても事故でしょう？ いくらなんでも可哀想だよ」

「例え理由が事故だらうとも、姉さんの着替えを覗いてしまった以上、兄弟による折檻は避けて通れないんだよ」

「それはそうかもしないけど……あ、また蹴り上げられた。これでもう1~3回目だよ。さすがにヤバいんじゃないかな？」

「兄弟の事だ、怪我をしないようにちゃんと手加減しているぞ」

「それもそうだね」

「今日も今日とて、ガクトは蹴りを推進力に空を飛ぶ か」

「田舎ひてもとめへんじゅねえー.. 助けりみー..」

「反省が足りないようだなガク。よしー5回で終わるかよつと思ひ継へりかせんじゅうたんすだ」

「轟[六]轟ったあー?」

12月20日は？

「あ、お帰りなさいタカさん」

「……えっと、これはいつたいどうなってるの？」

「帰ってきた時は『ただいま』だぜ、タカっち！」

「え、あ、うん、ただいま、まゆに松風。それよりもなんでも家にいるの？ それに鯛の刺身に鯛の煮付け、鯛の照り焼きに鯛雑炊まで……なんで鯛づくしなの？」

「えっとですね、下校際で凛奈さんに『今日は急用で家事当番が出来ないから私に代わって緋鶯刀の夕飯を頼む。材料は冷蔵庫に入っているから何でも使って構わない。ついでに由紀ひやんも食べていけばいい』と、鍵まで渡されてお願いされたので……」

「それで冷蔵庫を開けたら鯛がいっぱいあつたって訳か。そういうえば今日は『鯛の日』って言ってたからたぶんそのせいだね」

「（）迷惑だったでしょうか？」

「いや、ありがとう。助かったよ

「よかったです。あ、もうすぐ出来ますので座つて待つてて下をこ

「うそ、そうじゃないんだよ。久し振りにまゆの手料理だし楽しみだね」

「はい、丹精込めて作らせていただきましたー。」

「いい。実にいい。まるで新婚家庭のようで物凄くいいぞー。」

「電話で切羽詰まつた声で『一大事だ』って言つから何かと思つたら……部屋の中が見える高い建物から光学36倍ズームの望遠レンズがついた一眼レフで写真を取り、リビングに隠した集音マイクを使って中の様子を聞く。はつきり言つて犯罪行為ですよ。つていうか暇人ですね凜奈さん」

「そう言いながらも付き合つ辺り、さすがだな暁の坊主。ちなみに今日が『鯛の日』かというと、12月は師走とも言い鯛は魚篇に師と書く事から、20日は『二十^{ぶり}』語呂合わせだ」

「そうですか……俺は知り合いから犯罪者を出したくないだけです。デバガメもほどほどにしておかないとヒロが本気で怒りますよ。」

「その怒った顔もなかなかくるものがあるがな」

「ダメだこの人……」

12月21日は？

「ジン、何でも今日は『遠距離恋愛の日』『りこどぞ』」

「なんで今日なんだ？」

「それがだな、『1221』の両側の1が1人を、中の2が近付いた2人を表しているんだとさ」

「なるほどね、誰が考えたか知らないけど凄い発想だな」

「しかし遠距離恋愛か……そういうえば私も2年8ヶ月ほど経験した
なあ」

「うう」

「しかも私の一方的な想いだけだったなあ」

「えつと……」

「なんとこつても相手は完全に私の事を忘れていたぐらいだからな
あ」

「…………」

「やじまとじゅ、お前はどういつづつ、ジン？」

12月22日は？

「ふと思つたんですけど、この学園の教員たちにも労働組合ってあるんですか？」

「本当にこきなりだな直江。だが何故そんな事を聞く？」

「あれだろ、確か今日が『労働組合法制定記念日』であり、この学園がたまたまにだが労働組合法に抵触している様な気がしたんだろ？」

「よくあれだけの質問で読み取れたな……だが抵触しているよう見えるのか？」

「いやあ……時々なんですけど、こここの学園の教員つて割に合わない様な」としていふよつた氣がするんですね……」

「否定はしないがな」

「否定しろ馬鹿者。直江の質問だがちゃんと労働組合はあるぞ。だがどの先生もちゃんと納得済みでこの学園に来ているのだからそれほど不満はないだろうな」

「まあ、私の場合は不満があつたらすぐに辞めればいいだけだしな」

「お前は本当に自由奔放だな」

「食うに困らない資格ばかり持つてゐる人ですからね……」

12月23日は？

「今日は『天皇誕生日』という事で祝日らしいが、みんなは祝わないのか？」

「確かに天皇誕生日だけど基本的には国民の祝日の一つだよ」

「そうなのか……日本の天皇は神の血を引くと言われているがそれは事実なのか？」

「えっと、古事記や日本書紀ではそう書かれていますけど、それに載つてゐる神話は作り話のものもありますから、正確なところは分からないんですね」

「やうなのか……それなのに国民の象徴なのか？」

「歴史の流れから象徴となつたと考えていただければいいかと。それと知つていました？　日本の皇室は現存する世界の王朝の中で最長の歴史を有していると言われてゐるんです」

「なに！？　そうなのか！？」

「はい。6世紀前半に即位した繼体天皇以降、今上天皇に至るまでの皇室系譜はかなり信憑性が高いらしいので、少なくとも1500年以上は続いています」

「それは凄いな……なるほど、それならば神の血を引いていふと言われても信じてしまふそうだな」

「私はそれより、ジン兄の一族の方が神の血を引いていると言われたら信じちゃうかな。なんか物凄く信憑性高そうじゃない?」

「否定できない……」

12月24日は?

「まあかこんな所でクリスマスを過すとは思わなかつたぞ

「たまにはいいだろ? も、個室だからマナーとかは気にするな

「それ以前に、私としてはお前がフランス料理のテーブルマナーを知つてゐる方が驚きなんだがなジン……」

「テレビでやつてたものの見よつ見真似だよ

「やうか……それで?」の後の「予定は?」

「部屋も予約してあるし、上の階のバーでも行こつか

「……お前が率先してお酒を勧めてくるとはな。こつもなら『未成年なんだから』とか言つて真つ先に注意するの?」

「ま、今日はクリスマス・イヴだからな。やつかも言つたけど、たまにはいいだろ?」

「ああ、やうだな。それじゃあ

「改めて

「M a r y C h r i s t m a s」

§ § §

「寒くない？ ゴキ？」

「はい、大丈夫です」

「じめんね、せっかくのクリスマス・イヴなのに凛奈さんのパーティーに付き合わせちゃって……最後なんて殆ど酔っ払いの宴になつちやつたし」

「あはは……でも十分に楽しめましたし、ありがとうございました
ヒロさん」

「僕としては、出来れば2人っきりで過ごしたかったんだけどな……
…結局は凛奈さんの押しに負けちゃつて……」

「ふふ、でもヒロさん、まだクリスマス・イヴは終わってませんよ
？」

「はは、そうだね。それじゃあ行こうか。まずは駅前のイルミネー
ションを見て、その後の事は歩きながら考えよう」

「はい。」

§ § §

「うわ～！ 淫いね大和！」

「まつたく……行きたい」というがあるついで言いつからだにかと思えば、学園かよ」

「だつて雪が降つてゐし積もつてゐるのよー!? 誰もいない広いところで見てみたいじゃない！」

「まさに犬は喜びなんとやら、だな」

「大和は楽しくないの？」

「いや、お前と一緒にならどんにいても楽しいよー子」

「えへへ……ねえ大和」

「ん？」

「大好きーー！」

12月24日は？（後書き）

三者三様のクリスマス・イヴ。

時系列的には本編終了1年後のクリスマス・イヴといった感じで。

12月25日は？

「今日はテーマの誕生日なんだよね？」

「やうですヨユキ、実は私はキリストの生まれ変わりなんですよ」

「さうりとどんでもない嘘をつくな若。そもそもキリストの誕生日つてのは後付けで、本当はいつなのか分かつてないだろ」

「冗談が通じませんね、準は」

「でも『クリスマス』ってどういう意味なの？ なんで24日を『クリスマス・イヴ』って言いつの？」

「『クリスマス』の語源は英語の『Christ - s Mass』で『キリストのミサ』という意味なんですよ。そして『イヴ』とは『evening』と同義の古語『even』の語末音が消失したものですから、正確な意味で『クリスマス・イヴ』とは12月24日の夜の間だけなのですよ」

「ほー、そりゃ知らなかつたな。それよりも若、いいのか？ パーティーから抜け出して。昨日の本パーティー程ではないにしろ、今日もそれなりに関係者各位が集まつてんだろ？」

「昨夜、顔を出したので大丈夫ですよ。それよりも2人と一緒に過ごす方がよほど有意義なクリスマスですよ」

「うん！ 僕もテーマと準と過ごせて嬉しいよー。」

「あ、若がいにんだったりとやかく囁むなこれ」

「ええ、では行きませじよ、准、ヨキ」

12月25日は？（後書き）

3人が小6、中1ぐらいの頃。

冬馬にとって自分の誕生日すら忘れている父親のパーティーよりも、小雪や準と一緒にいた方が楽しい。それを理解して何も言わない準。複雑な事は分からぬけど一緒にいられて嬉しい小雪。

といった感じです。

12月26日は？

「へいりえ！ 僕様の必殺パンチ！」

「当たるかよ！ 僕のフットワークは止められないぜ！」

「おいモロ、キャップとガクトは何をやつているんだ？」「

「なにって……ボクシングでしょ？」

「見れば分かる。だから何でボクシングをしているんだ？」

「今日が『ボクシングデー』っていう外国の記念日だつて言つたら
いきなり始めたんだよ」

「勘違いも甚だしいな。そもそも『ボクシングデー』ってのはクリスマスプレゼントをの箱を空ける日、あるいはクリスマスにカードやプレゼントを届けてくれた郵便配達人や使用人にプレゼントをする日のことで、決してスポーツのボクシングとは違う

「外国の記念日なんだから勘違いしてもしじょうがないんじゃないかな？」

「ヒロの言つ通りなんだけどな……ちなみにどっちが勝つと思つ？」「

「僕はガクト」

「それじゃあ公平を期して僕はキャップ」

「兄弟は？」

「凛奈さん乱入でダブルノックアウト」

「「「え？」」」

「静かにしろくそガキども！ こっちは徹夜明けなんだ！ ゆっくり寝かせろ！」

「「ぐはあ」」

12月27日は？

「キャップ、なに読んでるんだ？」

「大和か。これ結構面白いぜ」

「『ピーター・パン』？ しかも原本直訳のやつか」

「まあな、バイト先の本屋にあつたから借りてんだ」

「相変わらずマニアなチョイスだなあの本屋は。しかしキャップにピーター・パンか……何か意図的な揶揄な気がするなあ」

「うん？ なんだよジン兄」

「何でもない。そういうえば今日が『ピーター・パンの日』なのは知つてたか？ イギリスの劇作家ジェームス・バリーの童話劇ピーター・パンがロンドンで初公演した日なんだってさ」

「へえ、そんな日があるんだ」

「キャップは別の意味でもずっと『ピーター・パン』な氣もするぜ」

「まあ、少なくとも俺と兄弟とヒロは別の意味でも『ピーター・パン』に当たはまらないけどな」

「テメエ大和！ そりや彼女持ちの余裕か！？」

「下世話な例えをしておいて、それを取つて返されたから逆ギレ…」

…どつ想つタカ？

「僕に振らな」でよ卓セ君

12月28日は？

「ちよー!? モモ先輩！ ピンを触っているんですかーー?」

「減るもんじゃないからいいだろー」

「むしろ増えるかもね、ククク」

「まゆっち相変わらず凄いわ。ビームもかしこも」

「あの…… うんな風に見られると恥ずかしいです」

「……1888年・明治21年のこと、文部省、現在の文部科学省が全ての学校に毎月4日に生徒の身体検査を実施するように訓令した。故に今日は『身体検査の日』とされているんだって」

「なるほど、ヒロが部屋の前で門番しているのはそういうわけか……それを聞いた姉さんが女子連中に『身体測定をやろうつー』とでも言つたんだな。で、それを吹きこんだ奴はどうした?」

「部屋の中を覗ひとした罰でジン兄の折檻を受けてる」

「やっぱり馬鹿ガクトか」

1-2月29日は？

「今日は『シャンソン』めりこにナビ、そもそもシャンソンって
どうこの意味なんだね？」

「しゃんそん？ それって何かの食べ物？」

「シャンソンとは楽曲のジャンルだ。相変わらず食い意地が張つ
てるな犬は」

「ハハセコわねー」

「えっと、そもそもシャンソンとはフランス語で『歌』を意味する
もろじく、現代のフランス語圏内では歌全般の意味として、他言語
圏では『フランス語で歌われる曲』という意味で使われているそう
で、特定のジャンルの楽曲を指すもではないらしいですよ~」

「む、そうなのか？ しかしまあちばは博識だな」

「いえいえ、凛奈さんからお聞きした知識ですから正確あるけど
事では……」

「しかし、まゆまゆは凛奈さんとこうこう話をよくするのか？」

「はーー、凛奈さんは作家といつ職業柄なんでしょうか、いろんな
知識を多く持つていらっしゃって大変ためになるんですね！ この間
もお泊りした時にいろんな事を教えていただきました！」

「凛奈さんの家にお泊りつて……」

「それってイコール、タカの家にお泊りって事だよね」

「そりゃ、保護者公認なのか。よかつたなまゆまゆ

「つえいー?」

12月30日は？

「今日12月30日は『地下鉄記念日』。1927年・昭和2年に上野～浅草に日本初の地下鉄、現在の東京地下銀座線が開通した。つまり、日本は地下鉄が通つてからまだ100年もたっていないんだよね」

「モロ！ そんな蘊蓄を今言つている場合か！ 我々は既に聖戦に出遅れています！ このままでは間違なく計画していた『冬^{イヌテイ}ゴミ^{イ・ブラン}の歩き方』を大幅に変更せざるを得ないんだぞ！」

「いや、そもそもスグルが寝坊したのが一番の問題でしょ。1日目の興奮が抜けきらずに寝付けなかつたって……遠足前の子供じやあるまいし」

「ふん、そんなんだからお前はまだまだ半人前の2次元人なんだ」

「寝坊して冬ゴミに遅れるのは一人前の2次元人のする事なの？」

「ぬぐう！ あのれモロオ」

「はいはい、駅についたよ。乗り換えるんでしょ？」

「おお！ そうだ！ 今は言い争つてゐる場合ではない！ 走るぞ！ モロー！」

「はいはい」

12月31日は？

「お、除夜の鐘が始まつたな」

「もうそんな時間が」

「今年は撞きに行かないのか？」

「こうしてお前とくつついて炬燵に入つてるとこに、なんでわざわざ寒い所に行かなきゃならんのだ」

「どうせあとでみんなと初詣に行くんだ。今、寒い外に出たところで余り変わらないだろ。それに行くって言つてもすぐそこの境内だろ」

「みんなで行くなら別に構わんが、せつかくの2人きりなんだぞ？ 暖かい所にいたんだよ。それヨリモミカン、ミカン」

「はいはい。ほら、口開けろ」

「あ～ん。うん、美味しいな」

「そういえば、カズが初詣の時に振袖を着るつて言つていたけど、お前も着るのか？」

「そのつもりだ。私の艶姿を見て惚れ直せよ」

「期待しておぐよ。それじゃあ」

「あ
」

「「今年一年、お疲れさまでした」」

1月1日は？

「いや～面白かったな、初詣も初日の出も」

「お前が楽しかったのはヒロが振袖を着てきたからだ」

「ああ、あれは素で驚いたな。おかげで私とワン子が靈んだぞ。まあ、タカの目は死んでたけどな」

「隣にいた凛奈さんのしてやつたりな笑顔が物凄い印象に残つたな。あれは間違いなく押し切られたなヒロのやつ。まゆっちが実家に帰つて見ていないのが何よりも救いか」

「[写メ]でまゆまゆに送つたりしてな。凛奈さんならやりかねんぞ」

「否定できないな……いや、確実に送つてるだらうな。それから俺はモモの方が綺麗だと思つぞ。惚れ直したぐらいだ」

「……急に話題を変えるな。照れるだろ」

「思つたままの事を言つたまでだよ。で、これからどうする？　ひと眠つするか？」

「なにを言つているジン。正月で元旦で初詣と初日の出を終えた。そして今私は振袖を着ている。となると次にやる事は決まつているだろ」

「おこ、おやか」

「ひ・め・は・じ・め」

「女が満面の笑みを浮かべて言つセリフか……さつさまでの恥じらいはどこに行つた」

1月2日は？

「よし！ みんな集まつたな！」

「正月2日は召集つて……もつとよつと常識を考えてよキャップ」

「全員とこつても、京とまゆつちとクロスは実家に帰省していないんだけどな」

「俺様、まだ眠いんだけど」

「くだらない事だつたらしばくからな」

「まあみんな落ち着け。おせち持つてきたから食べながらでもいいだろ」

「いただくわー！」

「はは。といひでキャップ、なんで今日召集をかけたの？」

「おお、そだつたそだつた。みんな、今年の初夢はどうなんだつた？ それを報告し合おうぜ」

「それだけのため。新学期が始まつてからでもいいだろ？」

「こちこちうるさごぞ大和！ ちなみに俺はインティージョーンズばりの冒険活劇だったぜ！」

「キャップいらしきね。悪いけど僕は見てないなによ。って言つが見

てたかもしれないけど忘れちやつた

「モロに同じ。俺も覚えてないな。ワニ子は？」

「うふ？ アタシはお姉様と互角に勝負する夢を見たわ！」

「まあしく『夢』だな。俺様は美女に囲まれた酒池肉林の夢だった
ぜ」

「なんで夢までそこまで俗っぽいんだろうね岳人君は。僕は何故か
分かんないけど女になつた夢だつたよ……」

「返す言葉がないぞヒロ。振袖を着た後遺症だらうな怨りへ

「そう言つジン兄は？」

「俺か？ あんまり覚えていないけど、なんか子供がいた様な……
？」

「なんだ、姉さんとの未来予想図か？ そのうち正夢になつたりし
てな。ところでさつきからずっと黙つてゐるけど、どうしたんだ姉さ
ん？ 変な夢でも見たのか？」

「いや、私も大和やモロ口と同じで覚えていないな
(言えるか。ジンとの結婚式だなんて私らしくない乙女チックな夢
を見たなんて!)」

1月3日は？

「なあ緋鶯刀」

「なに、凛奈さん。酒のつまみならもう少しで出来るから待つてね」

「了解した。ところで今日が何の日か知ってるか？」

「今日？ 1月3日だよね……戊辰戦争が開戦した日なのは知ってるけど、他に何かあったの？」

「ああ、今日は『駆け落ちの日』なんだ」

「駆け落ちって……」

「1938年・昭和13年の今日、とある女優と演出家が樺太の国境を越えてソ連へ亡命したんだ。で、その2人が人様には言えない恋仲だったらしく、その亡命は駆け落ちでもあつたってわけだ」

「それを僕に話して何が言いたいの？」

「由紀ちゃんと駆け落ちするなら私は援助してやるぞ。お前たちはある意味でロミオとジュリエットだからな。何だ、その人を蔑むような口は」

「小さな親切大きなお世話つて言葉、作家なら知ってるでしょ？」

「最近、イジリ甲斐がないなお前……」

1月4日は？

「誕生石？」

「はい、今日、1月4日は『14』の語呂合わせで『石の日』『ストーンデー』なんです」

「それで誕生石ね。僕とまゆとクリスさんは一緒にね」

「そうだな。3人とも10月26日だからな」

「10月は『オパール』『トルマリン』『ローズクォーツ』で10月26日は『タイガーアイ』だね」

「俺は！？ 俺は！？」

「キヤツプは12月12日……12月は『ターコイズ』『ジルコン』『タンザナイト』『ラピスラズリ』、12月12日は『ピンクダイヤ』だね」

「2月のアタシと大和は？」

「2月は『アメジスト』で2月20日は『オニキス』、2月26日は『イーグルクオーツ』だね。僕は3月で『アクアマリン』『コーンラル』『ブラッドストーン』、3月21日は『アイアン』だね」

「モロ、私は？」

「京は4月だったよね。えつと『ダイヤモンド』『クオーツ』、4

月13日が『バイオレットパール』だ

「最後は俺様とジン兄とモモ先輩か」

「8月は『ペリドット』『サードニッケス』、8月1日は『シトリ
ン』、8月8日は『ダイヤモンド』、8月31日は『ファンタムク
オーツ』だよ」

「『ファンタムクオーツ』か、カッコイイな。ジンはなんか予想通
りだな」

「そうか？（ここ）で俺の誕生日は便宜上でつけられた、なんて空気
の読めない事は言わない方がいいか」

1月5日は?

「はい、これで詰みですよ」

「待て、ちょっと待つてくれんかのう神」

「待ちません。もう10回目ですよ? いい加減に投了して下さい
鉄心さん。あ、ルー師範代、整地終わりました? お疲れ様です。
宇佐美先生、いい加減長考はやめて下さい。どんなに考えてもそこ
から逆転手はありませんから。それから綾小路先生、たつき打ち直
しをしましたよね? 公式ルールでは反則ですから気をつけて下さい。おっと、次はここです」

「ひつ。オイ暁の坊主。多面打ちしているのに何で正確に打てるん
だお前は?」

「ていうか、誰だよ? 囲碁なら勝てるって言つたの。オジサン全
く勝てる気しないんだけど?」

「そもそも、教員の親睦会をやつてこるのにいきなり呼び出して『
囲碁をするだ』って、いつのりの方が意味分かりません。鉄心さん、
諦めつきました?」

「なに、今日が1月5日の語呂合せで『囲碁の日』でな。お前が
以前、風間の坊主たち相手に将棋の多面打ちをして全員に勝つたと
聞いて、鉄心さんが『囲碁なら勝てるかも知れん』と仰つたんだ」

「どうせそんなところだと思いましたよ。と、宇佐美先生も凜奈さ
んもこれで詰みです」

「「なつー?」」

「ワシはこれでもプロと互角に打てるぐらこの実力を自負しとるつ
もりだつたんじゃが……」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3348w/>

真剣に私と貴方で恋をしよう！！外伝？～毎日が記念日 365日の小嘲

2012年1月5日19時49分発行